

関済協 10 年の歩み

*kansai saishu domin kyokai
osaka japan*

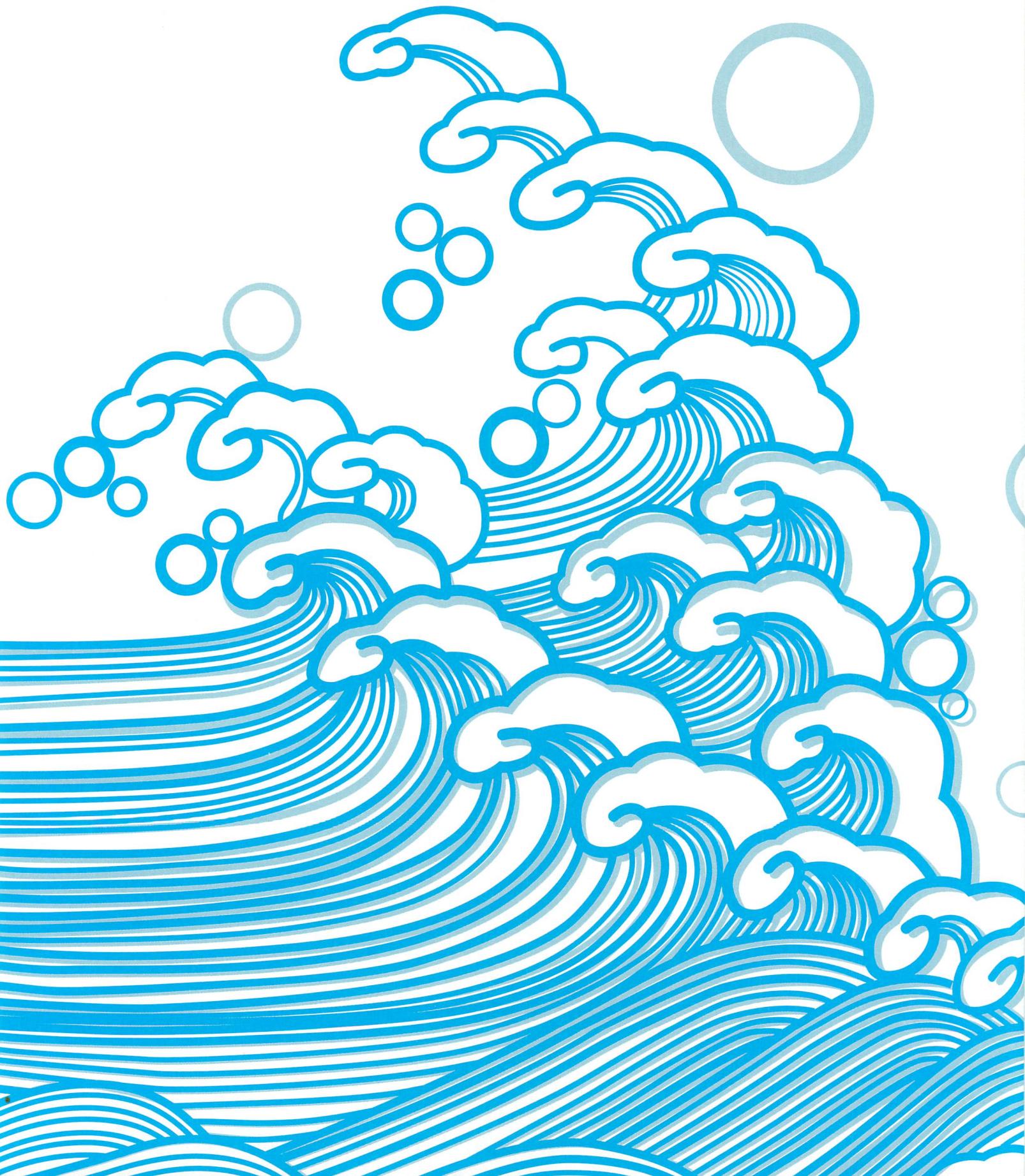
目次

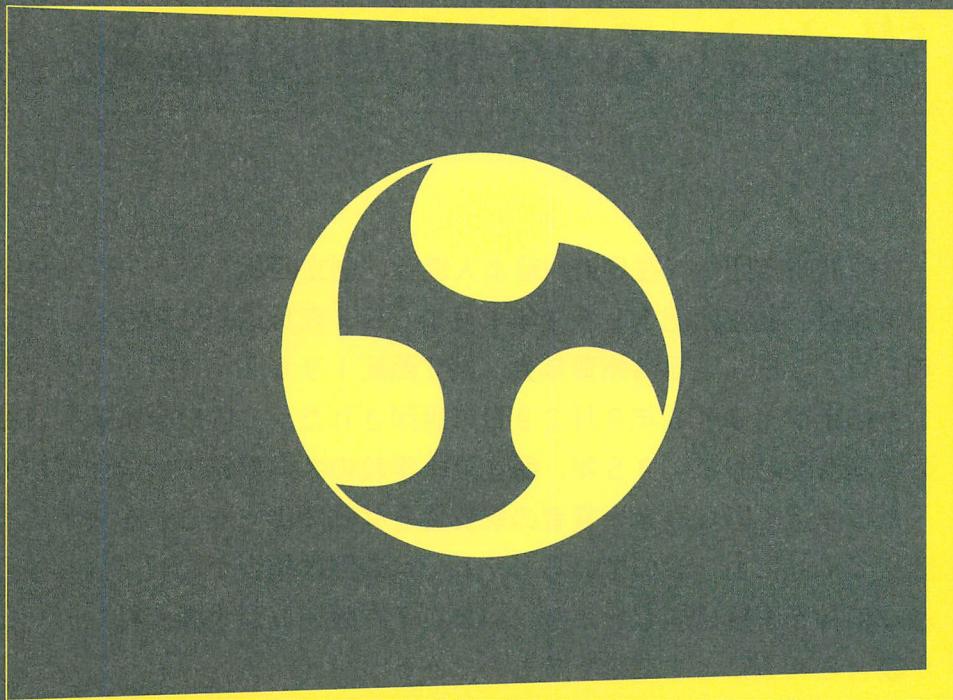
contenz

01	結成までの由来	<i>03 - 12</i>
02	祝辞	<i>13 - 24</i>
03	受賞された方々・創立10周年記念式典	<i>25 - 32</i>
04	年度別事業・福祉及び文化事業	<i>33 - 72</i>
05	思い出のアルバム	<i>73 - 88</i>
06	会員名单	<i>89 - 122</i>
07	婦人会・青年会の歩み	<i>123 - 132</i>
08	協賛廣告	<i>133 - 159</i>
	済州道、地図	<i>160</i>



01 結成までの由来





会旗の説明

関西済州道民協会の会旗（写真）は創立総会の席上、慎久範済州道知事より贈呈されたものです。

会旗の円は太陽、統合、和合を表し、三太極は三多、三無、三清（澄んだ水・澄んだ空気・澄んだ人心）を表しています。また、四隅は四団体の合心、すなわち統合を意味しています。

図案制作者は済州大学美術学科教授の文基善氏。同氏は1935年に済州市で生まれ、60年ソウル大学校美術大学卒業、65年済州道旗図案、80年済州道文化賞受賞、84年第13回全国少年体典聖火台製作、88年ソウルオリンピック寄着聖火台製作等々、其界の第一人者です。

望まれる済州四団体統合

在阪済州四団体（在日済州経済人協会、創立西紀1961年9月16日・在日済州道民会、創立西紀1963年1月16日・在日済州道親睦会、創立西紀1966年5月25日・在日済州青年会、創立西紀1967年4月18日）の統合を目的とした協定が1986年9月29日に調印されたが、同統合推進委員会では、四団体の共同事業として‘85年、郷土夏季学校の共同募集・共同派遣初めゴルフ会を行ったほか近く国民勲章受賞者の祝賀会を共同開催することを決定する等、統合の雰囲気づくりに力を注いでいる。それでは四団体統合がなぜ呼ばれるのか。協定文の基本精神を再度確認しながら、いまこそ在阪道民が大同団結し、一日も早く四団体が統合されることを期待するものである。

～統合推進委の基本精神～

いま、われわれはお互いの主張と立場を超越して、過去、われわれが歩んできた道程について、お互いが冷静に分析しながら、歴史的な統一作業に着手することを厳粛に誓う。

—— 四団体についての分析

過去四団体は郷土済州の開発と在阪道民の福利増進及び親睦を図ることに大きく寄与してきたが、反面、次の通り留意すべき点が多くあったことを指摘せざるを得ない。

1. 他道の団体は一つしかないのに、四団体があるのは、対内外的に在阪道民が分裂した印象を与えてきた。
2. 在阪同胞の約2分の1の勢力を持ちながらも、それだけの発言権を発揮しえ得ず、常に本国だけでなく、日本及び同胞社会でも、差別をうけてきた。
3. 四団体があることで、幅広い在阪道民の大同団結に多くの支障があった。
(四団体があることでどの団体にも属さない道民も多くいた)
4. 四団体があることで、郷土及びその他各級機関での連絡事務が複雑である。
5. 郷土及びその他各級機長の歓迎及び招請事業等に支障が多い。
6. 四団体があることで、全道民的な事業を計画推進できなかった。
7. 四団体の維持経費の側面がある。

—— 四団体が一つに統一されればどのような利益があるか

郷土済州の開発と将来に向かう「在阪道民の無窮の燐爛たる未来像」を創造できる。

1. 互いの主張と立場を超越して在阪同胞の大同団結のための源となる。
2. 郷土の総合開発と道民間の交流を組織的に展開でき、より高い次元で相好の紐帯を強化することができる。
3. 在阪道民の威信を回復し、対外に発言権（同胞社会の2分の1）を一層強化し發揮できる。
4. 統合会館建設等をはじめとした全道民的な事業を計画し推薦することができる。
5. 在阪道民の地位向上と福利増進及び相好扶助の親睦行事を効率的に積極推薦することができる。
6. 莫大な各団体の経費を節約し、基本財政確立を期することができる。
7. 郷土発展相と伝統文化を幅広く二・三世に正しく教え、在阪道民が歩んだ足跡と業績についても、誇りをもって継承させることができる。
8. 郷土及びその他各級機関と連絡事務所が便利になる。
9. 在阪道民十万の経験と知恵を一つにすれば、未来に向かう「在阪道民の永久不滅の燐爛たる未来像」を創造することができる。

—— 歴史的な統合委の構成・共同事業を積極的に推進

統合推進委の協定文

1. 本委員会は在日済州経済人協会・在日本済州道民会・在日済州親睦会・在日済州青年会で構成する。
2. 本委員会は各団体の相好立場を理解尊重しながら団合を目的とし、高次元の立場で団体統合を止揚するものであり、済州総合開発促進のための宣伝と調査をする。
3. 本委員会は四団体が統合されるまでは、各団体が関連があり、対内外的に共同歩調が必要な本国の各級機関長と経済人及び文化人等の歓迎及び招請事業の推進と郷土総合開発と文化発展のため、連帯性をもった事業推進を目的とする。
4. 本委員会の委員は各団体の会長、または会長が指名した任員で構成する。（各3名とする）
5. 本委員会は任員を置かない。但し、輪番制で各団体の代表委員が幹事となり、委員会を運営する。
6. 各団体で対内外的に共同歩調が必要な問題に関しては、その団体の委員から口頭または文書で各団体幹事に連絡を取り、委員会を開催して問題を討議する。
7. 共同事業の推進は、委員会の満場一致で決議した事業に限って推進する。
8. 本委員会で決議した事項は、各団体で責任をもって全面的に協力しなければならない。
9. 共同事業に必要な経費は、原則的に各団体が平等に負担する。
10. 本委員会は必要により隨時開催する。
11. その他の関連する必要な事項については、委員会の決議によって決定する。
12. 本委員会は四団体が統合すると同時に自動的に解散する。
13. 本会の事務所は在日本済州道民会に置く。上記趣旨下に在阪四団体は同統合推進委員会の設置に合意する。

経過報告

1993年度

[会員]

前済州道民会からの入会会員	189名
前済州道親睦会からの入会会員	155名
前済州青年会からの入会会員	101名
前済州経済人協会からの入会会員	53名
新規入会会員	116名
合 計	614名

[寄贈及び入会金・各団体より]

前済州道親睦会より
→ 入会金 775万円
→ 賛助金 800万円
→ 事務什器備品一式
前済州道民会より
→ 入会金 (寄贈事務所売却金の うちから 945万)
→ 事務什器備品一式
賛助金 1億5千7百20万 (1994年1月11日現在)

06月03日	仮称「済友会」結成準備委員会より、康忠男氏に会長就任の要請を受く (於：富士電線工業株式会社) 準備委員：朴東進、金基彦、高東皓、李永哲、金容海、洪正雄、金孝晃、崔方元
07月25日	仮称「済友会」結成準備委員会の会長選考小委員会より康忠男氏に会長就任の要請を受く (於：富士電線工業株式会社) 選考委員：朴東進、金基彦、趙南富、白丁赫、高時鍾、高東皓、李永哲、 洪正一、金容海、洪鍾淳、洪正雄、金孝晃、吳辰成。
09月30日	康忠男氏、仮称「済友会」会長就任を受諾、康忠男氏より会長代行に 吳承明氏を推薦、決定。会長及び会長代行に、会の名称をはじめ人事、事業等を すべて一任、「済友会」を解散 (於：百楽)
10月12日	創立準備委員会 準備委員を構成、創立準備小委員会、規約起草委員会を設置
10月18日	第1回創立準備小委員会=創立準備小委員会に付す議案を事前協議 創立準備委員会=会の名称、規約（案）検討、事務所開設。 所在地：大阪市天王寺区東上町8-36 農林ビル3F(50坪)
11月10日	第2回創立準備小委員会 (於：事務所) 創立準備小委員会に付す議案を事前協議 第2回創立準備小委員会 (於：百楽) 事業計画（案）及び予算（案）検討
11月29日	第3回創立準備委員会 (於：事務所) 結成総会について協議・総会役割割分担
12月06日	第4回創立準備委員会 (於：事務所) 役員選考
12月10日	顧問会議 (於：事務所) 顧問の顔合わせ及び懇談
12月13日	第5回創立準備委員会 (於：事務所) 役員追加決定 理事会に付す議案について協議
12月20日	理事会 (於：百楽) 経過報告・規約案審議・事業計画及び予算案審議

1994年度

01月06日	第6回創立準備委員会 (於：事務所) 結成総会準備
01月11日	常任理事会 (於：事務所) 結成総会の運営について・会順及び議事進行など
01月13日	役員会議 (結成総会準備状況確認)
01月16日	結成総会

関西済州道民協会結成に際して

(結成総会報告書より)

故郷を愛し常に済州道の発展を願い、在日出身者として親睦を深めようとする関西済州道民協会が、本日結成総会を開催するにあたり皆様とともに祝賀できることは、この上の喜びであると共に感無量の念を禁じえません。過ぐる年、6月3日、在大阪済州道出身者四団体の統合推進委員会から統合された一つの団体としての委任を受けた本協会の、今までの経験を要約して簡略にご報告いたします。

玄海を渡って異国に住むようになった済州道出身として、なつかしい故郷のためになる事業をしようと、大阪において済州道出身者四団体が結成されてそれぞれ三十年が経過いたしました。この短い間に我が故郷の済州道は大いに変貌し、近代的な田園都市として、また国際観光リゾート地として登場することになりました。郷土のめざましい発展の姿をみるたびに、済州道人としての誇りを感じずにはいられません。

済州道がめざましい飛躍発展をなしとげた歴史の分岐点に、本協会としては多少とも参与することになったことを誇らしく思い、またその間の会員皆様の厚いご協力に対して心より感謝を申し上げます。改めて言うまでもなく、本協会は相互間の親睦と郷土発展及びに、次世代を育成する事業を推進することになりました。

具体的には郷土訪問を通して相互間の交流とそのときどきの時代に適した各種の講演会・親睦会・新年会・青少年の民俗教育など、多彩な行事を企画推進することになります。このような行事は、異国で生活する済州道出身者として親睦を深め資質の向上において、大変意義ある事業であります。私たちはこのような事業を積み重ね、それを堅固な台としながら済州道と日本をつなぐ架け橋として前進していきたいと思います。

いまや済州道は過去のイメージを完全に払拭して、21世紀に向って明るい展望に溢れています。在日同胞もまた三世・四世という新しい世代が全面に登場することになりました。

この機会に、わが故郷・済州道がいつまでも繁栄し、そして私たちの子々孫々にいたるまで済州道を愛し、済州人としての誇りをもってくれることが私たちの願いであります。この願いを具体的に組織すべく本日、関西済州道民協会の結成総会を開催することになりました。

十数年前から在大阪済州道出身者四団体は、済州道行政当局との要望、また連絡事項においては共同で対処するため四団体連絡協議会を置き、そのつど対応してきました。しかし、四団体の事業、目的がほとんど同じであるため、統合の必要性を痛感し、八年前に済州道四団体統合委員会に名称を変え、統合実現に向け努力してきました。

ところが一定の前進がみられず、局面を開拓するために、昨年四団体の顧問を加えた統合推進委員会へと組織を拡大して毎月会議を開き統合推進の具体案を検討しながら活動を展開してきました。一昨年秋、四団体統合推進に関する調印及び共同声明発表を契機に、11月にははじめて「済州道民慰安の夕べ」を開催し、24日には済州道特産品販売展示ならびに禹瑾敏前済州道知事を囲んで懇談会をもつなど、統合に向けての環境、条件づくりにあらゆる努力を傾注しました。大変困難でしんどい作業であったように思います。

済州道四団体統合委員会ならびに内外道民の統合への深い関心と要望に応えるために、1993年9月30日、康忠男氏は、仮称「済友会」結成準備委員会のご要望を受け入れ会長就任を受諾いたしました。これまで統合実現のために心血を注いでこられ、多くのご声援を賜ったすべての方々にこの紙面をかりて心から感謝申し上げます。



関西済州道民協会

名誉会長 康 忠 男

済州四団体が大同団結して関西済州道民協会（関済協）が誕生してはや十年が経ったかと思うと、「歳月人を待たず」という言葉をしみじみ感じます。

私は、初代会長として関済協を預かることになり、その重責を反芻しながら、「私心を捨てて大同団結したことは済州道民の誇りであり、まずは、歩きながら考えよう」と皆さんに訴えました。

そして、郷土の発展に尽くしたいとの願いから、自主財源の必要を痛感し、皆さんとともに粉骨碎身したお陰で、「関済協ビル」を取得することができ、済州道人の団結と底力を内外に誇示することができました。

ご承知の通り、私達の故郷・済州道は、石と風と女の三つが多いことから「三多の島」と呼ばれ、昔は貧しく、それが故に日本に渡来し、身を粉にして働いてきました。そして、困難な環境にめげず生活基盤を嘗々と築き上げ、強い愛郷心のもと、故郷の村々に支援をし、あるいはミカンの苗木などを送ったりして、村の復興を手助けした人たちも大勢おりました。

私自身も、「あの人は韓国人だけど、いい製品を作って、社会にも貢献している」と言われる会社にしたいという思いで、まじめにコツコツとやってきたからこそ、今日の富士電線工業があると思っています。おかげで、自分の国を愛し、自分の故郷を愛するにふさわしい貢献もすることができました。私の会社では、済州道のシンボル・ドルハルバンが皆さんをお迎えしています。

そうした在日同胞の支援があったらばこそ、現在の済州道は、独特の耽羅文化と雄大な自然を誇りにして、あらゆる面で飛躍的に発展するようになったと確信しております。その意味からも、21世紀は東アジアの拠点にしようという済州道の開発プロジェクトをおおいに歓迎したいと思います。

思い起こせば、教育発展や電気、水道、道路舗装など、いろいろな面で、微力ながらも故郷の発展に尽くしてきたつもりです。また、済州少年祭典や国体、ソウルオリンピックなどの青少年のスポーツ分野にも応分の協力をさせていただきました。

これからも、済州道民協会は唯一の親睦団体であり、心の和をもって発展する事を心から祈ってやみません。

最後に、済州道民協会いつまでも、夢とロマンのある団体であってほしいと願いつつ、私の挨拶といたします。



関西済州道民協会

会長 朴 國 男

創立10周年記念誌発刊に際し、一言ご挨拶を申し上げます。平素は本協会に多大なるご支援とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

1月17日都ホテルに於いて創立10周年記念式典開催にあたり、皆様にはご利用のところ、かくも多数のご列席を賜り誠にありがとうございました。特に当日、ご来賓でご出席賜りました駐大阪大韓民国総領事館俞炳宇総領事ご夫妻様、私達の故郷済州道より禹瑾敏道知事ご夫妻様、国会議員高珍富様、済州道議会議長金榮訓様、民団大阪地方本部団長金昌植様、そして済州道庁の多数の関係者の皆様をお迎え致し、盛大に挙行できましたことに改めて真心よりお禮を申し上げます。

今から12年前道府より「四つの団体を統合して一つの団体になって、一本化することによって、もっと協力的な交流ができる」とのお話がありました。それを機運として当時の済州道民会、済州道親睦会、済州経済人協会、済州青年会の四団体が統合し、1994年1月リーガロイヤルホテルに於いて康忠男初代会長、吳承明会長代行によって盛大に結成総会を開催致しました。その後、吳辰成氏、梁斗京氏、高昌照氏歴代会長の卓越したご尽力のお陰によりまして、7階建ての自社ビルを所有し、内外に自負できる本協会へと発展して参りました。

私は歴代会長の指導を仰ぎながら本協会の目的であります会員の親睦を図り、郷土発展と次世代育成事業、そして、文化向上に寄与することをモットーに掲げ、本協会発展のために努力を致します。参加して楽しさを感じる関西済州道民協会、会員として自負できる関西済州道民協会、子孫まで継承する関西済州道民協会を皆様と共に目指しましょう。

これからも、尚一層のご理解とご協力くださいますようお願い申し上げご挨拶と致します。



02 祝辭



駐大阪大韓民国総領事館

総領事　俞　炳　宇

まずははじめに『関西済州道民協会10周年記念誌』発刊を心よりお祝い申し上げます。

関西済州道民協会は結成より今日まで全会員が和気あいあいとした雰囲気の中で心を一つに団結し、同胞社会発展はもちろんのこと地域社会発展のためにも大きく寄与することで在日韓国人社会の模範的な団体として成長して来られました。この場をお借りして貴協会並びに会員皆様方に深甚なる感謝と尊敬の意を表したいと思います。

多くの済州道出身者がここ関西地域に定着するようになった背景には残念な歴史があったことも事実であります。済州道民協会の皆様方はこのことを祖国を大切にする気持ちで昇華させ、故郷の地、済州道の発展に多大に寄与し、わが国の繁栄にも貢献して来られました。このように和合し団結する済州道民協会の姿は同胞社会の大きな力となりまたこれから巣立つ後輩たちの鑑にもなっております。

皆様の故郷、済州道は年々国際都市として変化・発展を遂げております。今後も済州道民協会が韓国と日本をより一層近い隣国として発展させていくにあたり立派な架け橋的役割を成し遂げていただけますよう祈願いたします。

今日に至るまで今までの渾身の努力を惜しまない協会役員をはじめ会員皆様方との感激を分かちえる栄光を喜ばしく思い、今後10年後にもまた、今とは比較にならないほど一層成熟し発展している関西済州道民協会の姿を描き見ながら、お祝いの言葉をお送りさせていただきます。

2004年3月



濟州道知事 禹 瑾 敏

関西済州道民協会が創立10周年の記念誌を発刊されること、100万済州人からの暖かなお祝いの言葉と、兄弟姉妹の情をお伝え致します。

大阪は、青雲の志を抱いて日本に渡った済州人たちの挑戦と苦難の克服の歴史が息づく土地です。我が済州道民は、10年前その大阪で関西済州道民協会が誕生したときの感慨を、未だはっきりと記憶しております。当時、済州経済人協会、済州道民会、済州道親睦会、済州青年会の四団体とその会員たちが、時代の流れに鑑み「韓半島の南北統一よりも難しい」と言われたほどの周囲の憂慮の声を払い除けて統合を成し遂げたのは、歴史的な快挙として評価されております。関西済州道民協会という名で皆様が統合を成し遂げてから、今年でもう10年になりました。これまで、長年の宿願であった道民会館の整備などにより、大阪地方の在日済州僑民の求心点としての使命を果たしてこられました。康忠男初代会長を始めとする歴代会長と役職員の皆様の愛郷の大きな志に尊敬と感謝の気持ちを捧げます。大義のために統合を成し遂げた皆様の姿は、故郷・済州の鑑です。済州が21世紀と共に国際自由都市を推進し、4.3事件解決という大きな課題に着手できたのも、皆様の道民統合の貴重な成果であると思っています。

私の変わらぬ願いは、我々の後孫が済州人として生まれたことを誇りに思える時代を開くことです。我々なら、きっと成し遂げることができます。済州では、今年になって国連環境計画（UNEP）総会、アジア太平洋観光協会（PATA）総会、アジア開発銀行（ADB）総会が続けて開催され、我が済州の未来に無限の可能性が提示しています。

関西済州道民協会10年の歴史の区切りに、新たな10年の出発を誓う朴國男会長を始めとする済州在日僑民の皆様に激励を送ると共に、皆様の夢が大きな喜びとして実を結ぶことを祈願いたします。

有難うございました。

2004年4月



在日本大韓民國民団大阪地方本部 団長 金 昌 植

このたび、関西済州道民協会が創立10周年を迎えられましたことを衷心より祝賀します。

思えば、10年前、道民会、親睦会、経済人協会、青年会という、いわゆる済州四団体がそれぞれに活動していたことを記憶しておりますが、その四団体が一つになるということを聞いて、正直なところ、びっくりしました。

四団体が統合するのは、南北統一よりも難しいという噂が飛び交っていたのも、昨日の出来事のような感じですが、四団体が本当に統合して一つになったときは、すばらしいことだと、心から喜ばしく思いました。

ご承知のとおり、漢拏山をシンボルとする済州道は、「三多の島」ともいわれ、伝説の多い島です。朴正熙大統領の時代から「東洋のハワイ」と称され、観光開発が積極的に行われてきました。国際的なイベントはもちろん、世界の指導者が集う国際会議もしばしば開かれております。

そして、21世紀を迎えるいま、東北アジアの拠点として、観光開発はもちろん、先端企業を招致するなど、新しい済州道づくりをめざして内外道民が一体となって推進していると聞いています。近い将来、済州道は必ずや、東北アジアのみならず、世界の観光地として羽ばたいていくであろうことを確信しております。

ここ大阪の地は、済州道出身の方々が非常に多い地域であります。民団組織においても、済州道の方々が、多くの面で貢献されております。今後とも、韓日親善の中心的な役割を果たすものと期待してやみません。

また、民団ではいま、「福祉の風は民団大阪から」という確固たる信念のもと、新しく社会福祉法人を設立し、民団大阪本部会館の隣接地に、「福祉センター」を建設するという事業を進めております。近い将来、完成すれば、キムチの香りが漂う福祉マダンが誕生するものと確信しております。このような福祉事業に対して、皆様のさらなるご指導ご協力をお願いする次第であります。

創立10周年を機に、なお一層の発展と朴國男会長をはじめ、皆さんのご健勝を願いながら、祝辞といたします。カムサハムミダ。



近畿産業信用組合

会長 爰 奉 植

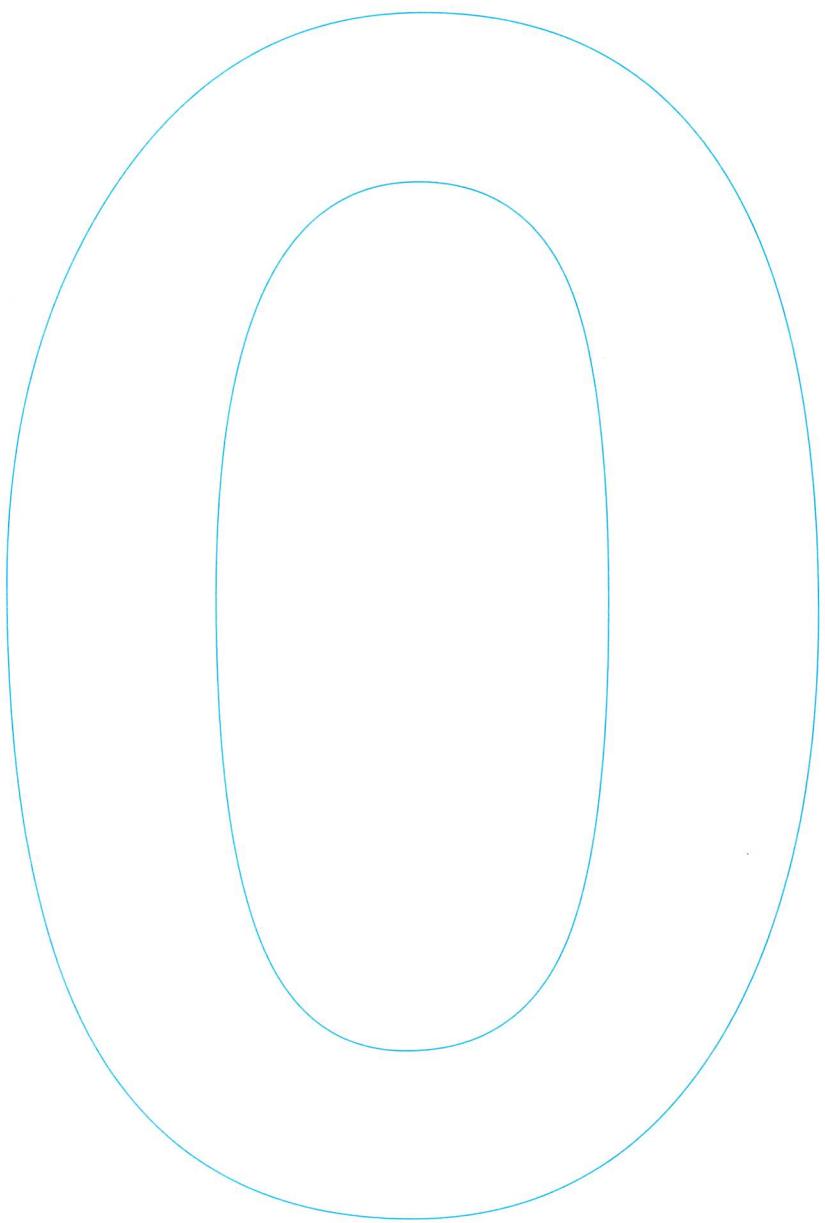
貴協会がいろいろな経緯を辿りながら、関西に居住されておられる在日の済州道民の皆様方を『関西済州道民協会』という一つの組織にまとめられ10周年を迎えたことは、大変意義深いものであります。そして、この間における貴協会役員及び関係者の皆様方のご苦労とご尽力を察し、心から敬意を表します。

現在尚、本国は政治に対する混乱が続いているが、私が常々申し上げておりますのは、本国が政治的にも経済的にも安定すれば、私達在日同胞も、日本そして国際社会からの評価が一層高まるということです。とりわけ、在日韓国人にとりまして、組織の中核は民団ですが、この民団組織が真にまとまり、全ての人々が結集していくれば、これ程力強いものはありません。この観点から、貴協会は会員の皆様方が一致団結してその範を示しておられ、このことは在日社会にとって大きな影響を与えていくものと確信しております。

2004年は在日同胞社会が真にまとまっていくための歴史的な年にすべきであります。そして、私達在日同胞が団結し、在日同胞社会のために一生懸命頑張る姿勢が、本国に大変な示唆を与えることになると思う次第です。

当組合は前年度3月決算において好調な成果を収めることができましたが、今後とも関西における唯一の民族金融機関としての使命を自覚し、今後も存在価値を高めてまいります。

最後になりましたが、貴協会の益々のご活躍とご発展をお祈りすると共に、併せて皆様方のご健勝とご多幸を祈念致します。





関西済州道民協会

三代目会長 梁 斗 京

済州四団体が統合して関西済州道民協会（関済協）が誕生し、私は三代目会長として、その重責を担うことになり、故郷との緊密な関係の強化に全力を尽くしました。

私のモットーは「団結は力なり」ということで、積極的に行動し頼りにしたいとの思いから、関済協の基盤設備と組織強化に取り組んだつもりであります。

ご承知の通り、康忠男初代会長は、関済協ビルを取得して組織の基盤を確立され、呉辰成二代目会長は、婦人会を設立されました。私は、子女の結婚問題解決のために結婚相談所を設立しました。また、会費制を導入しました。

その一方、忘れられない出来事は、済州道人の力量を結集した国際コンベンションセンターの建設がありました。異国の地日本で、祖国と故郷済州道の発展と在日同胞の地位向上のために献身するのは、私たちに課せられた任務と確信しております。その意味からも、私は、三世、四世が喜んで訪問できるような立派な済州道になってほしいと願い、郷土済州道での国際コンベンションセンターの建設支援に物心両面から総力を傾注しました。そして、100万済州内外道民の力を結集して、株式会社済州国際コンベンションセンター関西地域建設推進委員会が結成され、当時の慎久範知事や宋奉奎済州道議会議長らのご出席をいただき、私が委員長に推薦されました。

以来、「故郷との関係が薄れていく在日にとって、子々孫々にまで残す素晴らしい財産であり、誇りうる施設として、多くの済州道民が参加し協力したい」との信念のもとに、国際コンベンションセンターの支援活動を展開しました。そして、起工式も行われ、建設も順調にスタートしました。

ところが、世界的に景気が冷え込み、道政担当者が交代するという諸条件が重なって、コンベンションセンターの建設は、当初の計画変更を余儀なくされ、しばらくは棚上げされた状態になりましたが、2003年3月、規模を縮小してめでたく完工しました。私にとって、これほどうれしいことはありません。

私の会長時代にもいろいろなことがありましたが、済州国体の引率団長代行として、引率団長は康忠男名誉会長でしたが、「これまで一貫した訓練で技量を鍛えただけに相応の成果を期待している。母国との絆を深める場あり、選手団のうち半数が済州出身なのでホームチームのような雰囲気の中で競技に挑んで欲しい」と激励したこと、今となっては楽しい思い出となっております。また、済州道での初めての「島祭り」も大成功に終わり、記憶に残るイベントでした。



関西済州道民協会

四・五代目会長 高 昌 照

一代目会長 康忠男氏、二代目会長 呉辰成氏、三代目会長 梁斗京氏、各会長様が済州道・道庁との関係を太いパイプで密につないで頂きました御蔭様で、そのパイプを利用して私は何か[民間交流]が出来ないものかと考えておりました。

丁度その折、金容海先生が済州道の済州北初等学校と大阪市生野区の大阪市立北鶴橋小学校との間で姉妹校提携に奮闘されておられ、生野フットボール連盟所属の少年サッカーチームを済州北初等学校に招待されるということで、私は生野フットボール連盟顧問の大坂府会議員・西脇先生と懇意に致しておりました関係で、遠征試合の手続きをさせて頂きました。そのような縁で、明くる年の2001年に、2002年度の韓日共催のワールドカップの意義を少しでも盛り上げるべく、又「草の根」の[民間交流]を開催致したく、大阪市立北鶴橋小学校と生野フットボール連盟にお話をしましたところ、快くご承諾を頂くことが出来ました。

済州道から大静初等学校の少年サッカーチーム20名を招請しました。彼らの容姿・姿を拝見したとたん大変驚きました。それは、赤毛の選手・茶髪の選手・モヒカン頭など、様々な少年達が多数おり、内心心配をしておりましたが、いざ試合が始まると選手達は非常に礼儀正しく、活発に動きまわり元気に試合をしてくれました。結果2勝2引分で、その力を十分に發揮しておりました。

試合の終了後、大阪市立北鶴橋小学校において歓迎交流会を催して頂きました。約600名以上の皆さん方が参加され屋台などを出して、チジミ・焼肉・カレーライス・おでん・フランクフルト等を用意して頂き選手達もご馳走になり、又済州北初等学校の選手と大阪市立北鶴橋小学校の選手達は言葉が通じなくても一緒に賑やかに遊んでおりました。歓迎交流会は、盆踊り大会や花火大会を催して頂き、大いに盛り上がり終了することができました。その後、各子供達は約2~3名ずつに分かれて、日本の家庭でホームステイを行いました。後に聞きますところ、家族全員で銭湯やゲームセンターへ行ったり、プラモデルなどを買ってもらい、お互いに言葉が通じないにもかかわらず、大きな声を出しながら歓声を出して大喜びをしていたそうです。本当に「草の根」の交流が出来たのではないかと思います。

2002年8月には、外都初等学校の少年サッカーチームを招請しました。外都初等学校の少年達も本当に元気で、丁度この折は生野フットボール連盟を含め、6チームによるリーグ戦となりました。試合の結果は、主力選手が5～6名外れていながらもかかわらず、健闘よく2位に入ることができました。試合後は、各日本の家庭に2～3名ずつ分かれて、前回同様和やかなホームステイを行い、良い思い出を残して帰国してくれたと思います。

三回目の時は、日本政府の文化庁の主管による招請で、韓日の親善をより深める意味で、一回目に済州道の方から西初等学校を招請して頂きました。これも同様、試合終了後日本の家庭でホームステイを行いました。又彼らも良き思い出を残して帰国されたと思います。

このサッカー親善大会などを催すにあたり、焼肉パーティーを行いました折、婦人会に役員の皆様方の真摯なる協力、青年会の早期からのテント設営などの色々な真摯なる協力を頂くことが出来まして、大変有難うございました。

新年会のパーティーにおいての歌謡団、オーケストラ、そして事業部のお青龍においての納涼大会など、色々な行事を大成功裏に終わらせたと思います。これにつきましては、執行部、婦人会、青年会の皆さんとの並々ならぬご協力があったことを、心より感謝しながら、無事つつがなく四代目、五代目と2期にわたる会長としての任務を終えることが出来ました。



関西済州道民協会 婦人会

婦人会長 金 泰 順

このたび『関西済州道民協会10周年記念誌』が発刊されましたことを心からお祝いいたします。

韓国のことわざで「10年経つと、江山も変わる」という言葉がありますとおり、1994年に四つの団体が一つになった関済協は、さまざまな労苦を乗り越えながら今日の発展を築き大きく変貌を遂げました。これもひとえに全会員一丸となっての努力の賜物と思います。婦人会を代表して心より感謝の意を申し上げます。

第四代目の婦人会長を仰せつかり、覚悟はしていたものの責任の重大さに今、改めて身の引き締まる思いでいっぱいです。緊張もしております。私は関済協の規約にもございます「会員相互の親睦を図る」のが何よりも一番重要なことだと考え、微力ながらも実り豊かな会づくりに努めている次第であります。

関西には済州出身・本籍者が10万人を超えるとのことです。ごく自然に「全員が会員になればすごいだろうな」と、ふとそんな思いが脳裏をよぎりました。チエジュサラムにはすぐれた知恵、それを具現化する行動力をお持ちの方がたくさんいらっしゃいます。当協会の自社ビルなどはまさにその象徴です。東京にあります在日本済州道民協会もそうです。素晴らしい活動をなさっております。その名のとおり関済協は、関西を中心に会員拡充を積極的に進め、家族の輪をどんどん広げていくことが必要ではないかと改めて感じました。

「女性が三人集まれば皿が割れる」・・・。大変ユニークなお言葉ではありませんか。何枚でも割りましょう。婦人会としましても一人でも多くの会員を募り、和気藹々とした雰囲気の下、誰もが気楽にコミュニケーションをとることのできる会にしていきたいと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍とご健勝を心から祈念し、発刊のご挨拶にかえさせていただきます。감사합니다.



関西済州道民協会 青年会

会長 梁 哲 司

アンニヨンハシムニカ。

今期引き続き青年会会长を務めさせて頂きます、梁哲司でございます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

この度の【関西済州道民協会10周年記念誌】発刊に際し、歴代の執行部の皆様方、並びに先輩諸兄、関係各位様のこれまでのご尽力、ご協力に敬意を表すると共に深く感謝し、心から御礼申し上げます。また、この場をお借りし、先般執り行われました青年会第11回定期総会が無事盛況のうち終了致しましたことをご報告申し上げます。

さて、四団体が統合し関西済州道民協会青年会と新たに発足し10年の年月を数えることとなり、その間様々なことに遭遇されてきたことだと思います。特に統合時には、数々の賛否の中それに至るまでには、かなりのエネルギーを要したことだと推察致します。そして、そんな糾余曲折の末、発足した青年会に今、私をはじめ会長団、現役幹事は強い愛着を持っております。今現在我々青年会は会員総数46名を数え、先輩諸兄の方々が培ってこられた済州道青年会の伝統・精神を受け継ぎ、また、在日済州サランである事の誇りを心に持ち、十分とは言えませんが活気のある青年会だと思っております。しかし、その一方時代の趨勢による問題が山積みです。日本社会の同化傾向からくる民族意識の希薄さ、親睦団体である意義、新入会員の拡充の鈍化等々。10年前いや、もっと以前の様な日本社会における民族差別があったり、好景気に沸いた経済状況ではありません。私自身、「そんな時代だからこそ、今までの固定概念にとらわれる事なく、今の時代にマッチした青年会活動を目指すべきだ」と痛感しております。

今後は、これまで以上に会員達が経験豊富な先輩達から多くのことを学べる機会を多数もち、その一方、積極的な青年会活動の中から「与えられる体質からの脱却」を目指し、また、自己啓蒙・啓発を高める為の勉強会の充実を図ることにより【各々の何かを掴む】そんな青年会創りを目指していきたいと思っております。

今年度青年会スローガンを『新たなる出発』と題し、会活動に臨み、そして、幹事の皆さんと共に、【素晴らしい青年会】創りに精進致し、結果、青年会の近い未来の布石に成れれば幸いだと思います。

最後になりましたが、朴國男会長をはじめとする執行部の皆様方に深く感謝申し上げると共に、重ねてこの度の【関西済州道民協会10周年記念誌】発刊に至るまで様々な方面よりご尽力、ご協力下さりました方々に青年会を代表致しまして心から深く御礼申し上げ、今後も関西済州道民協会並びに青年会の発展の為、微力ではありますが精進努力することをお誓い申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。



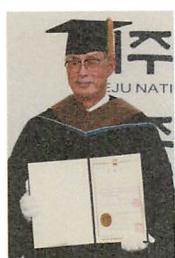
03

受賞された方々・
創立10周年式典



康忠男名誉会長が済州道大学校より 名誉経営学博士学位を授与

模範的な企業・社会活動が学生の指針
1998 年度



康忠男名誉会長は、日本の産業界に搖るぎない地位を築いている「富士電線工業」の創立経営者として知られており、その企業活動のかたわら、故郷の教育発展に寄与し、電気や水道施設、道路舗装などにも多大な貢献をした。また、済州少年体育大会やソウルオリンピック等にも積極的に支援した。そのような模範的な企業活動、社会活動が学生達にとって今後の教育、人生の指針になると高く評価され、名誉博士の授与となった。

康忠男名誉会長の胸像除幕式、済州大学校の発展の多大なる貢献をしている康忠男名誉会長の功績をたたえて、済州大学校に胸像除幕式を同校本部前で執り行った。

1996 年度、済州道文化賞を受賞した康忠男名誉会長の受賞祝賀会が市内ホテルで多数参加して行われ、済州道から慎久範知事や宋奉奎道議長らもお祝いに駆けつけた。同文化賞は学術・教育・言論・出版・体育・地域社会の 6 部門があり、康忠男名誉会長は済州四団体統合など数々の功績が評価されての地域社会部門での受賞となった。康忠男名誉会長は 1966 年に富士電線工業を設立し、大阪府知事表彰や通産業大臣賞、内閣総理大臣など数々の賞に輝いている。

高基秀顧問が済州大学名誉工学博士学位の栄誉に輝く 第 7 回 KBS 海外同胞賞(産業技術部門)を受賞

1999 年度



高基秀顧問は済州大学名誉工学博士学位の学位を受ける栄誉に輝いた。ハングルワープロと韓日自動翻訳プログラムを最初に開発し、コンピューター・ソフトウェア分野で韓日間の文化交流と理解促進に貢献していることが高く評価されたためである。

海外同胞賞は、世界各地で韓民俗のプライドを守りながら人類福祉増進と文化発展に尽くした同胞を選び、その業績を讃えるために KBS が制定した賞。第 7 回海外同胞賞は、26カ国 115 人の候補者の中から、学術・芸術・産業技術・社会奉仕・特別賞など 5 部門で各 1 人が選定された。

金容海顧問が済州道文化賞受賞

1995年度

大阪市立北鶴小学校で36年間にわたり民俗学級教師を勤めるなどして民俗教育に大きな貢献をしている金容海顧問が済州道文化賞を受賞した。その受賞祝賀会が康忠男名誉会長の発起人代表のもと、市内ホテルで盛大に開かれた。



洪鍾淳顧問が済州道文化賞受賞

1998年度

済州道文化賞（地域社会部門）を受賞し、12月22日済州道庁において授与式が行われた。洪鍾淳顧問は、14歳の時に渡日し、20代で山崎会館創業、企業家として活躍するようになった。熱烈な郷土愛の特主で、故郷の済州道にはミカンの苗木や学習教材を送り、防衛誠金や体育大会等に賛助するなど、人一倍尽くしてきた。



吳承明常任顧問が済州道文化賞受賞

1999年度

吳承明常任顧問は、済州道文化賞（地域社会部門）を受賞した。村民会館建設や農漁村電話付設事業、ミカン園発展事業などにおける愛郷事業が評価されたもので、12月17日済州道庁大講堂で開かれた。



金孝晃顧問が済州道文化賞受賞

2002年度

金孝晃顧問は、言論界活動が評価され、済州道文化賞を受賞した。言論界他に、済州道国際コンベンションセンターへの出資やワールドカップ競技場建設の寄金、あるいは韓日高校親善交流サッカー大会の主催など地域社会発展と貢献も高く評価された。



創立十周年記念式典



來賓紹介

駐大阪大韓民国総領事館	俞炳宇 総領事 総領事夫人曹善淑
済州道知事	禹瑾敏 知事 済州道知事夫人朴勝蓮
大韓民国会議員	高珍富 国會議員
済州道議会	金栄訓 議長
在日本大韓民国民団大阪府地方本部	金昌植 団長
在日本大韓民国民団中央本部	趙南富 副議長
在日本大韓民国民団大阪府地方本部	吳龍浩 副團長
近畿産業信用組合	長谷川昌三 相談役
近畿経友納稅連合会	高山圭一 会長
在外済州道民会総連合会	宋暢禹 会長
済州道観光協会	李吉鉉 会長
済州銀行	金國柱 銀行長
TODAY新聞社	趙孟洙 社長
社会福祉法人こころの家族	尹基 理事長
社会福祉法人セットン家	朴善喜 理事長
大韓民国会議員秘書	文大林
済州道庁職員	俞宗成 文賢一
済州道議会職員	金基三
済州道観光協会職員	南相敏 金昌孝 李英蘭
済州銀行職員	文鐘旭
TODAY職員	全秉敦
済州名誉道民証	笠井康弘 笠井夫人



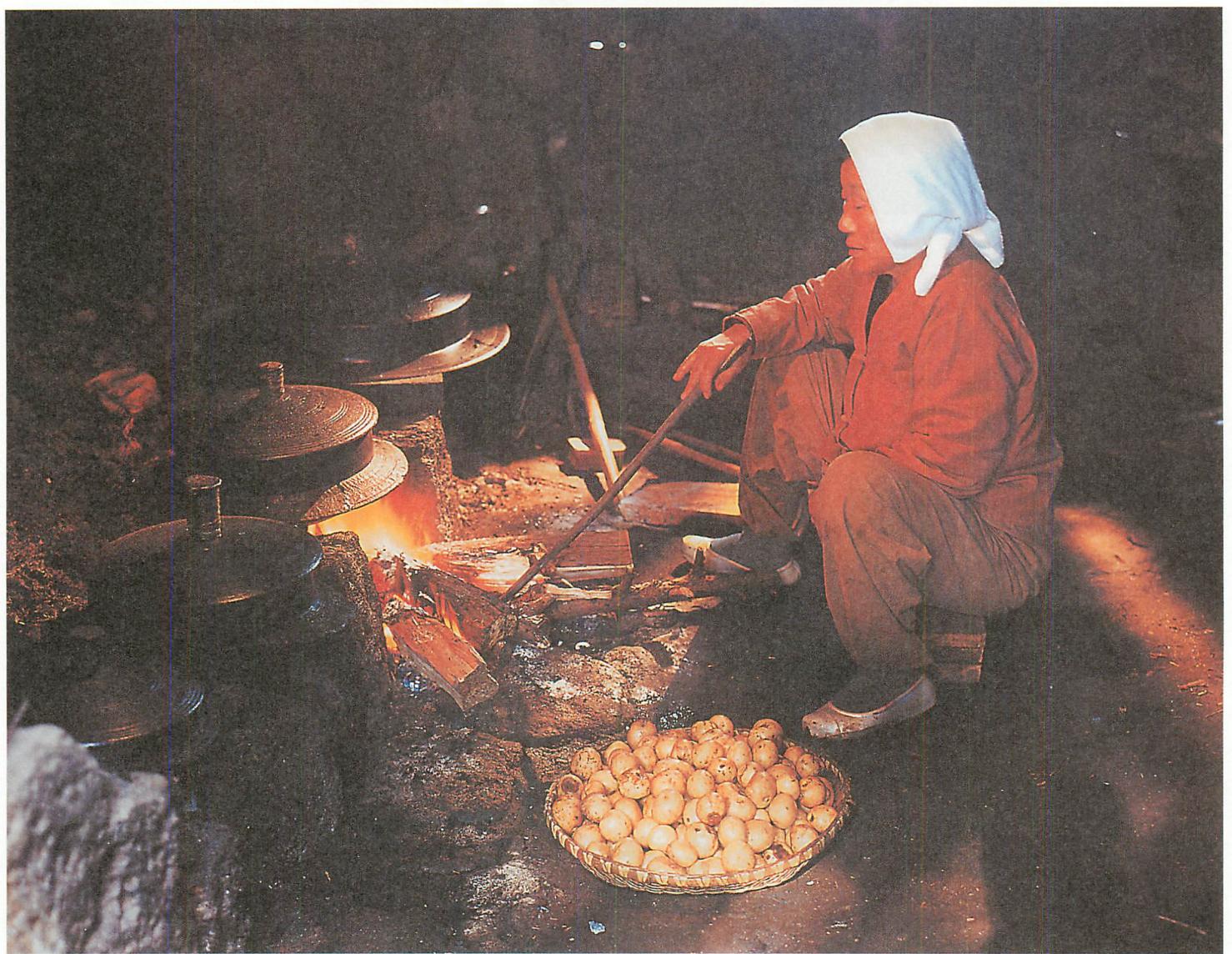


挨拶に立った朴國男新会長は、歴代会長の卓越したご尽力のおかげをもちまして、自社ビルを所有し、会員数659名の協会へと発展して参りました。現在では、内外に自負できる関西道民協会と言えましょう。私は歴代の指導を仰ぎながら、本協会の目的であります会員の親睦を図り、郷土发展と次世代育成作業、そして文化向上に寄与することをモットーに掲げこれから約2年間本協会の發展のために満身の努力を致しますと強調しました。

続いて、俞炳宇駐大阪大韓民国総領事・禹瑾敏済州道知事・高珍富大韓民国国會議員・金栄訓済州道議會議長・近畿産業信用組合会長（代理代読）の5氏がそれぞれ来賓祝辞を述べ、各層の来賓が紹介された。祝電が紹介されて、朴國男新会長から社会福祉法人こころの家族・セッタンの家へそれぞれ金封が伝達された。金昌植韓国民団大阪地方本部団長の先唱で乾杯し、アトラクションをミミックスター美川歌を楽しみながら和やかに談笑した。最後に高英寛総務副会長が閉会辞を述べ和気藹々のうちに終了した。







04 年度別事業・福祉 及び文化事業

'94

執行部役員



創立総会

在阪済州四団体である道民会、親睦会、経済人協会、青年会の統合が済州道民の長年の宿願であったが、関係者の努力がやっと実り、新しく関西済州道民協会として出発することになった。その創立総会が1月16日、大阪市北区のロイヤルホテルで600余人参加して開かれ、変革への新しい時代に向けての在日の愛郷活動を積極的かつ大規模に推進していくことを確認した。

「南北統一により難しいと言われた四団体の合併ができる、感激新たなものがある。これを機にさらに大きく団結して、日本に生きる私たちの子孫に夢とロマンのある会館を残し、組織を残していく」

二世三世のために 新会館

新会館は、次代を担う子孫達に残す資産で、関西在住の済州道出身者全員の憩いの場、あるいは交流の場である。



会長 康忠男(永野)
会長代行 吳承明(坂本)

事務長 李永哲(鈴木)

副会長(総務)	(西原)	総務部長	(金沢)
"(財政)	(和田)	財政部長	(徳山)
"(組織)	(梁本)	組織部長	(大山)
"(事業)	(大山)	事業部長	(金沢)
"(企画)	(高山)	企画部長	(金城)
"(厚生)	(徳山)	厚生部長	(徳山)
"(文化)	(田中)	文化部長	(箕山)
"(涉外)	(大宮)	外部部長	(大島)
"(体育)	(吳城)	体育部長	(鳩山)
"(青年部)	(安田)	青年部長	

名譽顧問	慎久鼎	範根	(済州道知事)	相談役	(江原)	理事	(水山)	理事	(江東)
顧問	李康金	久鼎	(田中)	"	(高倉)	"	(中川)	"	(大田)
"	安榮	熙烈	(永野)	"	(岩城)	"	(文本)	"	(金城)
"	梁白	洙祐	(山本)	"	(原田)	"	(木下)	"	(良原)
"	姜金	順致	(安本)	"	(田中)	"	(林)	"	(坂本)
常任相談役	高容	時官	(良田)	"	(新井)	"	(川本)	"	(吉田)
相談役	洪金	昌景	(白川)	"	(金城)	"	(波多野)	"	(神野)
"	金	洞	(木山)	"	(安井)	"	(安田)	"	(林)
"	金	伯	(藤田)	"	(岩井)	"	(平山)	"	(神田)
"	金	昌	(高藤)	"	(良本)	"	(藤本)	"	(金沢)
"	金	昌	(梅野)	"	(新居)	"	(北田)	"	(新木)
"	金	昌	(松山)	"	(梁川)	"	(吉田)	"	(大山)
"	金	李	(金井)	"	(梁川)	"	(高木)	"	(安田)
"	金	李	(森本)	"	(梁川)	"	(梁本)	"	(森山)
"	金	吳	(豊山)	"	(梁川)	"	(高山)	"	(吉村)
"	金	吳	(石原)	"	(星野)	"	(今上)	"	(高原)
"	文	太	(文元)	"	(柳川)	"	(松本)	"	(兼村)
"	金	基	(金本)	"	(有田)	"	(平山)	"	(大森)
"	金	寬	(松岡)	"	(新井)	"	(富永)	"	(安田)
"	金	基	(西篠)	"	(農川)	"	(李原)	"	(坂本)
"	金	東	(木下)	"	(岩本)	"	(高山)	"	(中野)
"	金	東	(中村)	"	(国田)	"	(南本)	"	(德山)
"	金	舜	(鳥崎)	"	(金田)	"	(伊東)	"	(光山)
"	金	芳	(高)	"		"	(加音代)	"	(三国)
"	金	高	(金城)						
"	金	東							
"	奉								
"	吉								



関西済州道民協会
1994.1.16



創立総会

1月16日
ロイヤルホテル

慎久範	150,000	李純安	5,000,000	申英進	100,000	康章秀	100,000
李鼎根	1,000,000,000	康秉照	2,000,000	文元甲	300,000	洪呂杓	100,000
康勲	10,000,000,000	吳景學	2,000,000	李友吉	500,000	李京彦	100,000
梁熙晋	5,000,000,000	安泰榮	2,000,000	安潤根	1,000,000	吳吉市	100,000
姜順賛	5,000,000,000	金孝晃	5,000,000	李正林	300,000	鄭永贊	100,000
金致富	5,000,000,000	洪正雄	1,000,000	申政治	100,000	劉德松	100,000
全容海	500,000	金聖大	1,000,000	禹瑾成	150,000	姜元成	100,000
高時鍾	500,000	金廣侑	1,000,000	高武男	1,000,000	金浩英	50,000
洪官一	1,000,000,000	金成洙	1,000,000	梁東錫	300,000	金德彬	50,000
金仁植	5,000,000,000	洪佳佑	3,000,000	夫忠甫	100,000	朴鍾夏	50,000
金昌海	1,000,000,000	韓成根	1,000,000	趙太錫	500,000	秦聖訓	50,000
李洞伯	1,000,000,000	洪正一	500,000	金炳鍾	300,000	梁輝雄	50,000
林泰連	1,000,000,000	文安雄	1,000,000	吳行男	250,000	金奉完	50,000
吳太培	3,000,000,000	洪性仁	1,000,000	俞昌連	100,000	金享央	50,000
文培基	500,000	高基秀	2,000,000	姜博司	100,000	金仲吉	50,000
金清珍	500,000	趙泰華	500,000	金大植	100,000	梁和男	50,000
金昌日	10,000,000,000	李君祐	500,000	金奉休	100,000	李大呂	50,000
李寛祈	5,000,000,000	李林根	2,000,000	金元泰	100,000	禹瑾昌	50,000
金基彦	1,000,000,000	韓健三	1,000,000	安基台	300,000	車大善	50,000
朴東進	1,000,000,000	金達孝	1,500,000	高文玉	200,000	高英寛	50,000
李昇芳	1,000,000,000	趙南富	500,000	朴孔來	100,000	文鍾天	50,000
金永孝	1,000,000,000	朴茂範	3,000,000	安祥文	100,000	高奉柱	50,000
金奉吉	500,000	金永柱	1,000,000	安昌洪	50,000	康賛益	50,000
俞吉植	3,000,000,000	朴晶暉	2,000,000	尹仁生	100,000	金德永	50,000
玄在玉	300,000	高昌晃	1,000,000	李允玉	100,000	林幸範	50,000
康誠賢	200,000	邵卿司	500,000	洪敬杓	100,000	高仲三	50,000
安昌柱	10,000,000,000	康隆彦	500,000	白國炯	1,000,000	柳元玉	50,000
梁熙連	500,000	康文男	1,000,000	邊昌九	200,000	金源奉	50,000
康忠男	5,000,000,000	崔正庸	1,000,000	孫博己	300,000	金建實	100,000
吳承明	5,000,000,000	梁宇濬	100,000	韓希福	300,000	金丞煥	200,000
韓長淑	5,000,000,000	李泰助	100,000	李華峻	250,000	(大阪韓國工商会議所会長)	
吳辰成	5,000,000,000	朴基文	300,000	張正兒	250,000	李相均	1,000,000,000
梁斗京	5,000,000,000	李昌南	100,000	李福太	200,000	信用組合開西興銀	5,000,000,000
金用文	2,000,000,000	鄭孟潤	150,000	洪純一	200,000	済州道民会	7,050,000,000
高昌照	5,000,000,000	金好正	100,000	高昌世	100,000	済州道親睦会	8,000,000,000
洪鍾淳	2,000,000,000	姜宗河	200,000	金豐一	100,000		

賛助金明細
(1993.11.5~1994.12.18)
~順不同~



賀
開会式
賀
6月27日 新会館開設祝賀会

夢とロマンのある組織を
子々孫々に残したい
康忠男

四団体の合併が私たちの夢でありロマンでありましたが、今までそれを積極的に推進する人がいませんでした。ところが、一年ぐらい前から四団体を合併しようとの雰囲気が盛り上がり、四団体の役員の方々が一緒に頑張って、南北統一よりも済州四団体の合併の方が難しいとも言われておりました四団体の合併をやっと実現することができました。

そして、私が会長を務めることになりましたが、本当に名誉なことであり、意義のあることだと皆さんに感謝の意を表します。損得を考えますと、とても引き受けられる役職ではありませんが、創立総会には済州道知事をはじめ多くの来賓の方に来ていただきました時は、私たちの祖国、私たちのふるさとは、私たちを見捨ててはいないのだと思ふ、本当にありがとうございました。これからも祖国を愛し、故郷を愛していきたいと思いますが、そのたびに私たちは自分の事業を愛して力をつけるということが大事だと痛感する次第であります。

ところで、私の会長就任にはいろいろな苦情が出ました。日本でもよくリストラと言われ、時代の変革と言われています。昔流でいえば革命です。今はこういう変革の時代になっ

てきています。昔の常識は、今の常識ではないと言われております。どちらが正しいかはよく分かりませんが、ただ言えることは、合併した私たちのこの団体が、より団結してうまく運営されていくべきは、そこに立派に常識ができる筈です。皆さんもそれを認識して、私のやり方に多少不満もあるでしょうが、歩きながら考え、悪ければ直していくということでお勧めしたいと思います。

三番目に、仲良く団結することが一番大切だと思います。いがみ合っていても何一つ得なことはありませんが、団結すれば何かができますし、お互いが力強く助け合っていくこともできます。祖国を離れ、他国で暮らしている私たちは、団結をしないで、自分だけが賢くなろうとしてもダメです。

同じ民族、同じ血を分け故郷を同じくする私たちですから、仲良く団結することが肝心です。仲良くするためには上の人が手を握り範を示す必要があります。ですから、四団体統合をスタートに役員の皆さんがまず団結し、私たち済州道民の本当に豊かな生活、あるいは子孫繁栄のことを考えて、仲良く一致団結することを願わずにはいられません。



▲ 1994年1月16日 創立総会



▲ 1993年12月10日 顧問会議（顧問の顔合わせ及び懇談）



▲ 横久範・瀬戸内道知事



▲ 1993年12月20日 第一回理事会

'94

文化事業



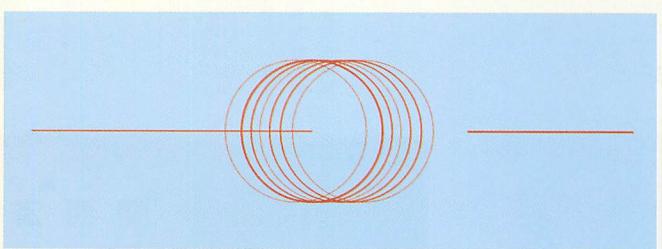
鄉土訪問



鄉土訪問



▲鄉土訪問



執行部役員



康忠男



吳承明

会長 康忠男(永野)
会長代行 呉承明(坂本)

事務長 李永哲（鈴木）

總務部長	金晃	(金沢)
財政部長	雄大	(徳山)
組織部長	侑	(大山)
事業部長	洙	(金沢)
企劃部長	佑	(金城)
厚生部長	根	(徳山)
文化部長	一	(箕山)
外部部長	雄元	(徳山)
涉体育部長	正	(大島)
青年部長	聖廣	(鳩山)
	成佳	
	成正	
	安方	
	崔	

(西原)
(水原)
(原辺)
(徳山)
(光山)
(三国)

理事
会計監査

高高趙李朴李韓金趙朴金梁朴梁高邵康金吳李韓崔梁李朴任李鄭金姜申文李林姜金安李申文文康	常任理事
範根煦洙桔晉赫賛富海鍾一植海王伯連弼容基珍仁珩彥進芳孝皓吉秀彥圭元植植祿夏重彩玉元洙彬	理事
久鼎榮在熙丁順致容時官仁昌景洞泰文太裕清昌寬基東舜永東奉泰在文萬吉南昌錫泰炳在鄉太熙	
慎李康金安梁白姜美金高洪金金李林吳興文金金李金朴李金高金朴姜許愈齡孫鄭康康玄康康高	
當任相談役	
顧問	

(高倉)
(岩城)
(原田)
(田中)
(新井)
(田中)
(久松)
(金城)
(安井)
(新井)
(良本)
(新居)
(梁川)
(高山)
(大原)
(永野)
(山田)
(石原)
(森本)
(西原)
(星野)
(柳川)
(有田)
(新井)
(農川)
(原本)
(国田)
(金田)
(水山)
(中川)
(文本)
(木下)
(林)
(川元)
(波多野)
(安田)
(松田)
(平山)
(藤本)
(北田)
(康村)

(吉田)
(赤木)
(高木)
(梁本)
(高山)
(今上)
(松本)
(西原)
(平山)
(永原)
(李原)
(高山)
(大山)
(南本)
(伊東)
(山西)
(富永)
(原山)
(松山)
(大田)
(城)
(金良原)
(坂本)
(吉田)
(神野)
(林)
(神田)
(金沢)
(吉田)
(原木)
(新木)
(安田)
(森村)
(吉村)
(高原)
(兼村)
(大森)
(安田)
(田本)
(中野)
(德山)
(康本)



難産だつた
四団体の統合
— 呉承明 —



一昨年の4月頃に、四団体統合委員会ができまして、一團体に3人ずつ12人の委員が選出されまして、統合組織設立の準備をずっと進めてまいりました。

そして昨年の6月頃から、会長にはこの人しかいないということで、富士電線工業の康忠男社長に会長就任を要請し、交渉に入りました。そして12人の委員がいろいろと話し合い、交渉したのですが、健康が優れないということで、長い間、会長就任を固辞し、「辞退通知」を関係者に郵送する事態にまで発展しました。

最終的には12人の委員の中から洪鍾淳（現厚生担当副会長）、呉辰成（現財政担当副会長）の二氏を選抜しまして、康忠男氏と交渉しました。その結果、康忠男氏は「実質的には呉承明氏が会長代行を引き受けてくれるならやりましょう」という条件で就任の意向を示したのであります。

で、昨年9月30日の旧盆の時でしたが、上六の都ホテルで朝の10時半から昼の2時頃まで話し合いましたが、私たちを見捨ててるんですかと言われ、そのような経過を説明されますと、私もいろいろ考えた末、断るわけにもいかず、

会長代行という要職を拝命することになりました。

そしてその夜の百楽での会合に出席し、設立準備委員会の設置に合意したのであります。実のところ、会長代行を受けましたものの、本当に苦労しました。が、引き受けた以上は何がなんでもやらなければとの決意から、いつも洪鍾淳氏と金孝晃氏（現総務部長）の手助けをいただき、何とか形らししたものを作ったような次第であります。

今後、どういう会を作ったらいいのか、二世三世のために何かをしてやりたいということをいろいろ考えた結果、自分の会館がなくてはどこへ行っても大きな顔もできないということから、まず、会館建設を第一の事業とすることになりました。幸い、東成区に立派な会館を取得することができました。

皆さん一人でも多く積極的に参加し、活動していただければ立派な会ができると確信しておりますし、二世三世に立派な会館を残すことが、私ら一世の使命だと思います。



▲ 新年会・成人式

'95

文化事業



郷土訪問



激動の政局を占う

ロイヤルホテルにて



本協会主催の特別記念講演会が1995年11月21日午後6時から、大阪市北区のロイヤルホテル（光琳の間）で開かれ、評論家の早坂茂三氏が「激動の政局を占う」と題して約1時間にわたり講演しました。

この講演会には、役員、会員から4百人が参加し、耳を傾けた。講演会終了後、同所で懇親会が開かれ、なごやかに歓談した。なお、この講演会の開催にあたり、康忠男会長と李純安文化担当副会長の多大なる賛助に拍手が贈られた。

この特別記念講演会を担当した李純安文化副会長は次のように語った。

時代は激流の最中にあって、いま、何を基本にどのように生きるのか。個々のこれから展望を確かめ、全体の流れを見定めることが要求されています。今回、時代を先取る講演会を企画したが、これが1つの指針となり、確固たる方向性が示され、先見の明を確認できる場になれば幸いです。

阪神大震災義援金

（済州道各機関、各団体の義援金）

募金期日：1995年1月28日～3月31日
 被災者申請：1995年2月01日～5月30日
 被災者支給：1995年6月20日～6月30日

関西済州道民協会は「阪神大震災特別委員会」を設置し、会員に対し震災の義援金をお願いした。

また、今まで済州道を助けてくれた在日侨胞を「今度は済州道民が助けよう」と郷土済州道からも、小学生、中学生を含む全道民から多大な義援金が寄せられた。

さらに、済州道の各機関、団体も本協会を訪れ、義援金を伝達すると共に本協会の案内で被災地神戸等を視察し、被災者を慰問激励した。また、1月19日には、本協会社会貢献費から韓国民団大阪本部に100万円を義援金として伝達した。

誠金芳名録

◎済州道知事	50,000,000 w
◎済州道知事外職員一同	5,197,000 w
◎済州商工会議所会長	¥1,932,000
◎済州大学校総長	¥100,000
◎済州市長外職員一同	3,968,000 w
◎北済州郡守外職員一同	2,821,000 w
◎南済州郡守外職員一同	2,385,000 w
◎西帰浦市庁職員一同	2,287,000 w
◎北済州郡セマウル婦女会会長外職員一同	250,000 w
◎済州道教育監	¥1,241,000
◎済州道公務員（私立・初・中・高）	¥8,421,259
◎済州道体育会一同	¥508,000
◎林奎元法務士	500,000 w
◎中央ロータリークラブ全廣培会長外会員	500,000 w
◎済州ソンアン教会堂鄭永澤会長	2,000,000 w
◎済州市議會議長	500,000 w
◎済州道青年会議所地区会吳忠進会長	2,000,000 w
◎タンラロータリークラブ金徳勲会長	300,000 w
◎新済州ロータリークラブ李春植会長	500,000 w
◎済州銀行長金栄済	5,000,000 w
◎東済州ロータリークラブ金昌道会長外会員	600,000 w
◎城山浦ロータリークラブ金平淡会長外会員	410,000 w
◎西帰浦市ロータリークラブ洪喜文会長外会員	500,000 w
◎済州ロータリークラブ イ ジュポン会長外会員	690,000 w
◎済州道女性団体協議会邊秀文会長外会員	200,000 w
総額日貨	¥22,300,200
関西済州道民協会会員一同	¥6,162,000



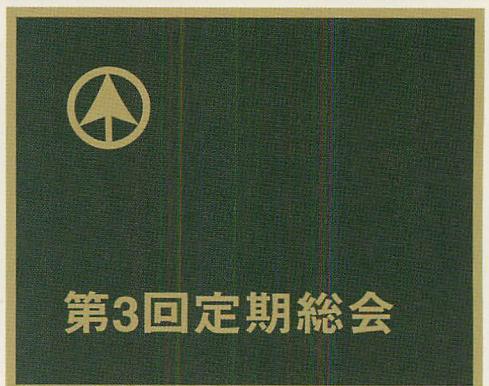
'96

会長 吳辰成(和田)

執行部役員



吳辰成



呉辰成

歩きながら考え、仲良く夢とロマンのある組織に
さらに楽しみと笑いのある組織を

康忠男前会長（現名誉会長）の後任として、関西済州道民協会（関済協）の会長を引き継ぎますことを光栄に存じます。ご承知の通り、関済協は済州四団体（経済人協会、道民会、親睦会、青年会）が1つになろうということで、康忠男前会長のもと一致団結し、在日道民の献身的な努力によって誕生しました。

そして、「夢とロマンのある組織づくり」をモットーに私たちの拠り所であります会館（関済協ビル）を所有することができましたし、様々な活動を推進して参りました。また、阪神大震災への救援活動も郷土済州道と表裏一体になり、推進することができ、大きな成果をあげました。

このようなおおきな功績を残しました康忠男名誉会長の後任だけに、責任も重大で、これから2年間、それに恥じない事業を推進していく所存ですが、康忠男名誉会長がモットーとして参りました「歩きながら考え、仲良くして、夢とロマンのある組織づくり」を忠実に引き継いでいきますとともに、私はもう一つ、「楽しみのある会、笑いのある会」にしたいと願っております。それは私の信念でもあります。

「ハレードの法則」、別名、「二八の法則」というそうですが、経済学者のハレードが国民所得の分配論を説いた法則です。すなわち、20パーセントの人が80パーセントの分配を得るということになるそうですが、この法則は、組織運営の面にも援用され、その組織の会員の二割がその組織を運営するようになるということです。言い換れば、二割が役員になって活躍するということです。ですから、斬新な陣容の新役員とともに、新年度事業計画案を忠実に実践して参りたいと思います。

現在、関西には約12万人の済州道人が居住し、そのうち625名が関済協の会員です。私は、これを、2年間で1000名ぐらいの会員にすることを公約します。そして、「ギブ アンド テイク」ではなく、「ギブ アンド ギブ」の精神で、道民のため、同胞社会のため、手助けしていきたいと願っております。

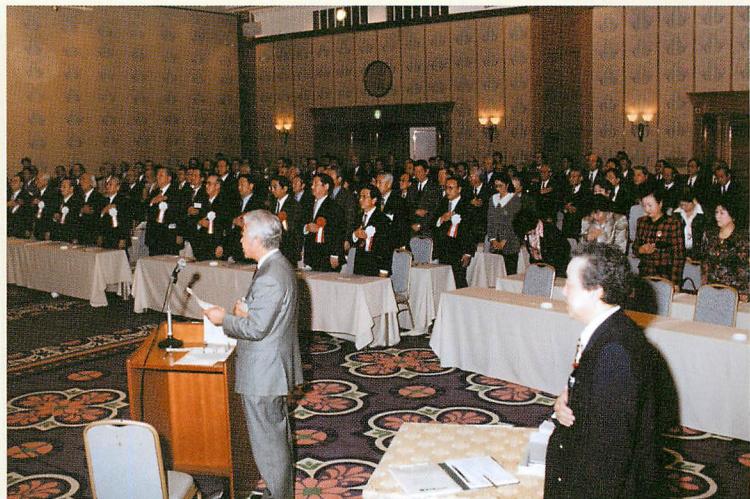
「男は最後に評価されるもの」と言われますが、不言実行を基本姿勢に、まず、関済協の懸案であります婦人会を組織したいと思います。同胞社会の最大の問題は、子女の結婚の問題であります。同胞同士の結構が約20パーセントと聞いております。私自身、息子さんを持つ親からも、娘さんを持つ親からも、よく縁談を世話してくれと、頼まれますが、なかなかその伴侶が見つかりません。これは非常に深刻な社会問題です。

そういう意味からも、婦人会を組織し、お互いに縦の連絡、横の連絡を密にしながら、さらには、私も副会長をしております大阪韓国商工会議所あるいは慶尚南道、慶尚北道、全羅南道等の各道民会とも情報交換しながら、1人でも多く幸せな結婚ができますよう、子女の結婚問題によりよい環境を提供していきたいと念じております。

私は今までの人生の経験から、気迫というのでしょうか、そういうものが存在すると感じております。ですから、このエネルギーを自分のものとし、前向きに積極的に人のため、社会のために尽くしていく所存でありますので、皆様の絶大なるご指導ご支援をお願いする次第であります。



▲ 金世澤総領事



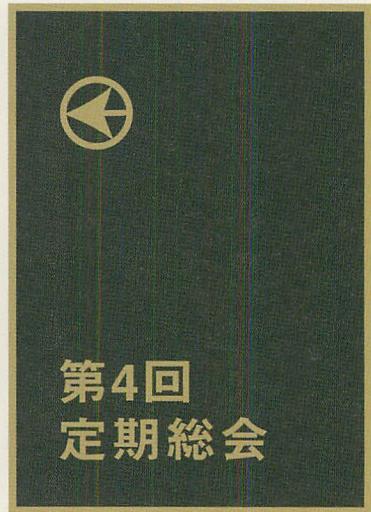
▲ 定期総会



▲ 新年会・成人式

執行部役員

会長 吳辰成(和田)



呉辰成

コンベンションセンターは在日同胞と故郷を結ぶ力強い架け橋
二十一世紀にかける大きな夢・次世代に残す素晴らしい財産

大きな夢、次世代に・・・



▲ コンベンションセンター 2003年完成



ンセンター建設に参与することによって、故郷がより近くになり、そのコンベンションセンターは子々孫々に引き継がれる素晴らしい財産として永遠に残っていくからであります。

幸い、関西地区では副委員長や委員の皆さんが昼夜を問わず、縁故者たちに直接会って、コンベンションセンター事業の素晴らしさを説明し、請約をお願いしました。そのおかげで、多くの道民に請約していただくことになりました。大宇グループの金宇中会長夫妻も50億ウォンを投資しましたように、2000年に完成予定の済州国際コンベンションセンター事業は、韓国内はもちろん世界に点在する済州道出身者の間でも熱烈に歓迎されております。

ご承知の通り、コンベンションセンター事業は一株5000ウォンの株式出資方式をとっており、個人は10万~60億ウォン、法人は1000万~180億ウォンが出資できます。そして、総額1800億ウォンという膨大な事業費を投入する事業ですが、そのうち609億ウォンを私たちの力で投資することになっています。子々孫々に委譲するこの記念碑的な事業は、今の時代に生を受けた私たち道民の手で是非とも成し遂げなければなりません。

コンベンションセンター事業は百万済州道民の21世紀にかける大きな夢であり、在日道民と故郷とを結ぶ力強い架け橋であると確信しております。一世の方々が営々と築き上げた企業精神と生活姿勢を範にし、百万道民の力量を一つに結集するならば、いかに困難な事業でも必ず達成できるでしょうし、それを成功させることは、百万済州道民の威信をかけた事業であると確信しております。

'96

文化事業



第2回講演会

定期総会前に、午後5時より都ホテルに於いて「済州道の文化を語る」と題し特別講演会を開催した。

講師は大阪生まれの作家（済州道出身）梁石日先生を迎えて大盛況に終えることができた。



'97

文化事業



慎久範知事を表敬訪問



濟州道地方公務員院長と懇談



執行部役員

直前会長 呉辰成(和田)
会長 梁斗京(梁本)

専務理事 李永哲 (鈴木)



梁斗京





団結は力なり||さらに大和合の組織へ

梁
斗
京

祖国は、予期もしなかった経済危機に見舞われ、「IMF時代」と称される忍従の時代にあります。新しく就任された金大中大統領は、国民の大和合によって、この困難を克服していくことを内外に闡明（せんめい）されました。私たち在日同胞も、「困難克服の一助たらん」との気概をもって、祖国と連帯し「IMF時代」を乗り切っていきたいと思います。

思えば、濟州四団体が大同団結して「関済協」が誕生したのは、1994年1月16日のことでした。以来、光陰は矢の如く過ぎて、その大和合の日から早や四年半の歳月が瞬く間に経過し、康忠男初代会長、呉辰成2代目会長の後を引き継ぎまして、不肖、私が三代目会長に推挙され、就任することとなりました。

ご承知の通り、康忠男初代会長は「歩きながら考えよう」との理念のもと、関済協ビルをはじめとする組織の基盤を確立され、呉辰成2代目会長は「楽しい組織づくり」をモットーに婦人会を設立されました。三代目会長としての私に課せられた任務は、子女の結婚問題解決だと確信しております。

親睦団体という組織は、お金を使い、時間を使い、神経を使い、何か郷土のために尽くしたいというボランティア精神の発露の場であり、物質的なメリットは何もないと思います。

しかし、郷土と同じくする者同士が会い、談笑することによって、精神的なメリットを多大に受けていると感じております。そういう意味から、私自身、何かを学びたいという気持ちで、この会に出席しております。

在日同胞社会は、日本生まれの子女が大半を占めることとなりました。それにともなって国際結婚の比率が高まり、民族的なものが失われつつあります。それは、私たちの子供たちにとっても遠くなりつつあるということに他なりません。石と風と女の三つが多いことから「三多の島」と呼ばれてきた私たちの故郷、濟州島は昔は貧しく、それが故に日本に出稼ぎに来た一世の方々は一生懸命働き、困難な環境のもとで生活基盤を営々と築き上げてきました。このような郷土の歴史は決して忘れてはならないものだと思います。

だからこそ、民族的なものを確かめ合う同胞同士の結婚が最善と考えられますが、悲しいかな、現実は逆の方向へ流れております。この流れに竿を差すことは困難な作業かもしれません、私は敢えてこの困難な作業に挑んでいきたいと思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど伏してお願い申し上げます。

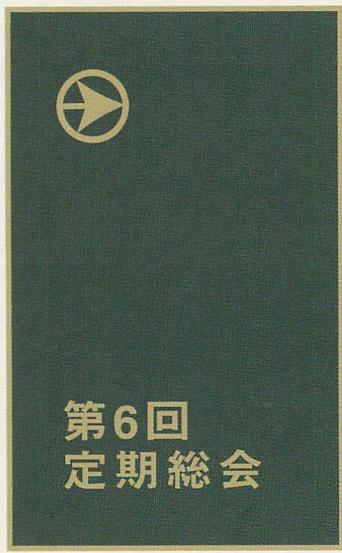
また、郷土をより身近にする濟州国際コンベンションセンターが建設されつつあります。そのコンベンションセンターは永遠の財産として子々孫々へ残していく財産であり、私たちは更に大和合し、物心両面からコンベンションセンターの建設に支援、協力していきたいと願っております。

'99

執行部役員

直前会長 吳辰成(和田)
会長 梁斗京(梁本)

専務理事 李 永 哲 (鈴木)





愛郷心の強い方々に守られ支えられて
いる
関済協はますます発展

梁
斗
京

光陰矢の如しと申すのでしょうか、またたく間に一年半が経過しましたが、昨年度は済州道で初めての島祭りや、また初めての全国体育会など、まことに行事の多い年でありました。関済協が誕生して早や五年が経過し、その間、内外の多大なるご支援、ご鞭撻により大過なく運営されてまいりました。私の任期も後半年余りとなりましたが、力ある限り頑張り、皆様の期待に沿うべく種々の事業を積極的に展開していきたいと念じている次第であります。なにはともあれ、先立つものはお金であります。これまで、役員各位の負担で運営してまいりましたが、会員各位からの会費もお願いしてはどうかとの声もあがり、そこで、理事会での決議を経て、会員皆様にお願い申し上げたところ、郷土を愛し、関済協を愛する多くの方々からご協力をいただきました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。このような愛郷心の強い方々に守られ、支えられている関済協は今後ますます発展するであろうことを信じて疑いません。

思えば、康忠男初代会長は「歩きながら考えよう」との理念のもと、関済協ビルをはじめとする組織基盤を確立され、呉辰成二代目会長は「楽しい組織づくり」をモットーに婦人会を設立されました。三代目会長としての私の課せられた任務は、子女の結婚問題解決だと確信し、「結婚情報センター」を設立し、婦人会が主催する「若人の集い」等の行事とも連繋して相応の成果をあげてまいりました。周知のように在日同胞社会は、国際結婚の比率が高まり、同胞同士の結婚が極端に減少しております。これは、郷土が、子女にとって遠くなりつつあり、民族的なものが失われつつあるということに他なりません。

石と風と女の三つが多いことから「三多の島」と呼ばれてきた済州道は昔は貧しく、それが故に日本に渡来した一世は身を粉にして働き、困難な環境にめげず生活基盤を營々と築き上げてきました。そして、強い愛郷心のもとに郷土済州道の親族や、あるいは村々に支援を続け、あるいはミカンの苗木などを送ったりし、そうした在日同胞の熱い郷土愛の支えなどもあって、現在の済州道は豊かになり、韓国でも一・二を争う高所得の地域となりましたが、そうした郷土の歴史は決して忘れてはならないものだと思います。

バブル崩壊後十年が経ち、公的資金の注入等なんとか立て直すつもりの政策が打ち出されているとはいえ、中小企業にはまだまだ明かりが見えておりません。関済協の皆様におかれましては、何かと大変ではありますが、この時期を耐え忍び、越えていけば、すばらしい時期もまたくるものと確信しておりますので、共に頑張っていきたいと思います。

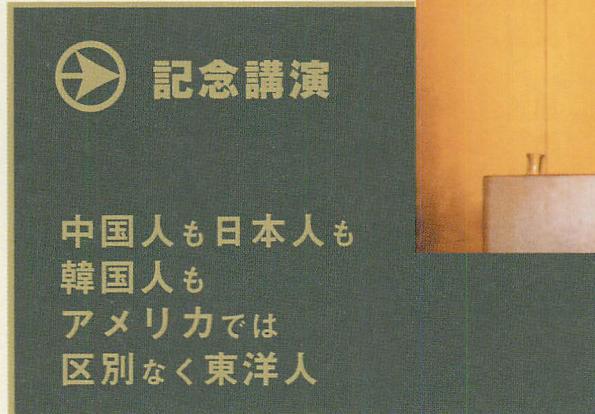
'98

文化事業



▲
第七十九回全国
体育大会

▲
在米同胞の
高全恵星女史



二重
文化に生きる

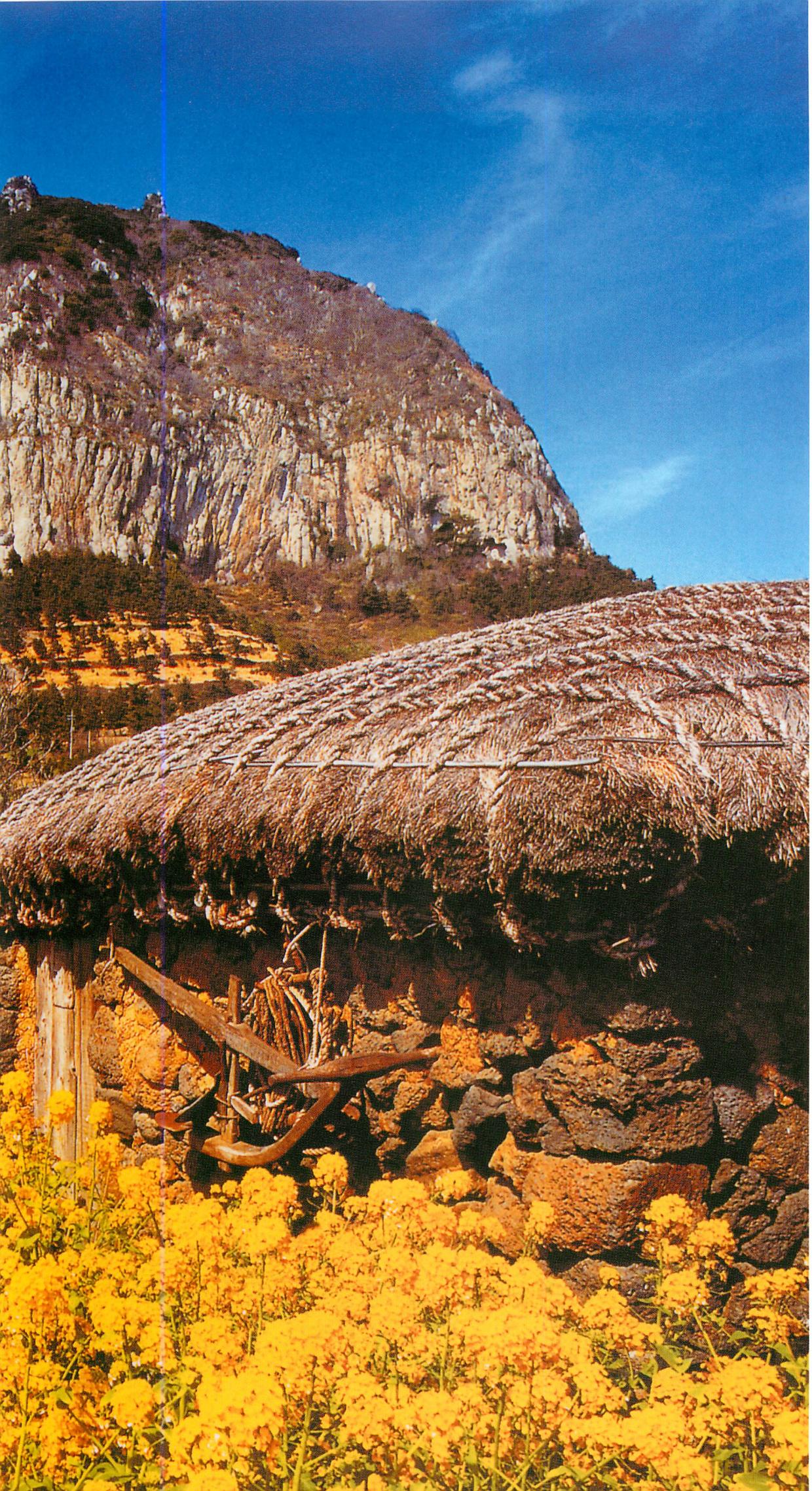


'99

文化事業

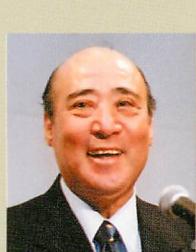






'00

執行部役員

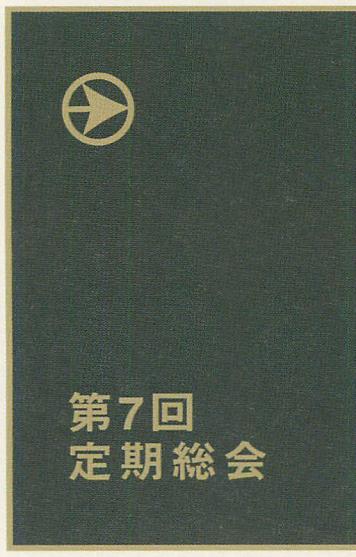


高昌照

直前会長 梁京斗（梁本）
会長 高昌照（高山）

専務理事 李永哲

名譽顧問	名譽会長	常任顧問	顧問	相談役	理事	監事
禹康興	禹康興	禹康興	禹康興	禹康興	禹康興	禹康興
吳康梁	吳康梁	吳康梁	吳康梁	吳康梁	吳康梁	吳康梁
白姜金	白姜金	白姜金	白姜金	白姜金	白姜金	白姜金
林金金	林金金	林金金	林金金	林金金	林金金	林金金
吳洪金	吳洪金	吳洪金	吳洪金	吳洪金	吳洪金	吳洪金
洪金金	洪金金	洪金金	洪金金	洪金金	洪金金	洪金金
邊文金	邊文金	邊文金	邊文金	邊文金	邊文金	邊文金
高	高	高	高	高	高	高





▲ 執行部郷土訪問



▲ 禹瑾敏済州道知事夫妻



▲ 定期総会



▲ 第1回理事会

大阪・済州で少年サッカーの交流試合 「二〇〇二W杯」盛り上げの一助にも！

高 昌 照

20世紀の終わりであります2000年と21世紀の始まりであります2001年という意義ある節目の二年間、関済協の四代目会長という重責を担うことになりました。歴代会長の名を汚さぬよう、栄えある会長職を全うすべく精進したいと存じます。

母国・韓国は、過去二十年間に素晴らしい経済発展を成し遂げました。そのスピードが速すぎて危うく転倒しそうになりましたが、金大中大統領の善導と国民の節制ある努力によって、短期間にその危機を脱し、昨年11月にはIMF事態の終息を宣言し、7%以上の経済成長率が見込まれています。

故郷・済州道においても、近年の発展振りは目覚しいものがあります。その証しとして、多くの国家元首や政府要人が数多く来島されました。旧ソ連のゴルバチョフ大統領、ベルギー国王、李鵬中国総理、ドモイ・ベトナム共産党書記長、クリントン米国大統領、橋本日本国総理、等々、数え上げればきりがありません。

これも「済州島を東洋のハワイに」と提唱された故朴正熙大統領の政策が着実に実践され、東洋有数の観光名所になった成果だと思います。そして特筆すべきは、西帰浦市に2002年W杯サッカーの競技場が建設されることであり、そのための高速道路建設など基盤整備が着々と進捗しております。このW杯サッカーを機に、済州道が世界有数の観光地としてさらに発展することを期待してやみません。そのためにも、関済協が今以上に故郷に貢献できる組織となり、期待される組織になっていくことを願い、執行部ともども粉骨碎身していく所存であります。

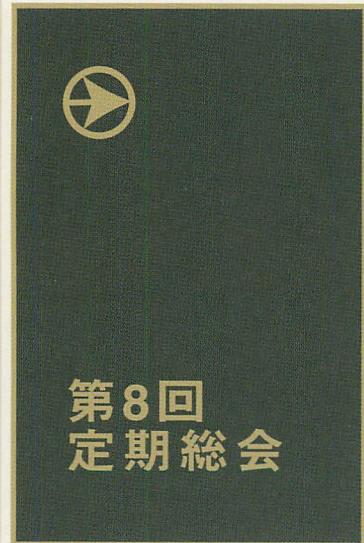
康忠男初代会長は「歩きながら考えロマンある組織にしよう」、呉辰成二代会長は「仲良く楽しい組織にしよう」、梁斗京三代会長は「積極的に行動し頼りになる組織にしよう」という理念のもと、関済協の基盤整備と組織強化に取り組んでまいりました。

私は、歴代会長の実績を正しく継承して、「スポーツなどの民間交流を積極的に推進する」ことを最優先の事業にしたいと考えております。その手始めとして、2002年W杯サッカーのムード盛り上げの一助にもなるであろう韓日少年サッカーの交流試合を支援していきたいと思います。

執行部役員

直前会長 梁斗京(梁本)
会長 高昌照(高山)

專務理事 李永哲





▲ 北鶴橋小学校・民族学級の器楽演奏



▲ 济州世界島文化祭り

スポーツを通じて草の根の民間交流
韓日共催のW杯サッカーを機に済州道は世界へ飛躍する拠点に

高 昌 照

光陰矢の如しと申しますか、1年があつという間に過ぎ、残す任期もあと6ヶ月ほどとなりました。その間、民間交流の活発化を最大目標に、副会長、部長、常任相談役らの惜しみない協力により、韓日青少年のサッカー親善交流試合を成功裡に開催でき、草の根交流の小さな根を大阪に残せたことは、このうえない喜びであります。

昨年の夏、郷土済州道から大静初等学校の選手20名、役員9名を招請し、生野フットボール連盟所属の少年サッカーチームと親善交流試合を行い、ホームステイを含めた父兄の方々の幅広い支援のもと、北鶴橋小学校でも交流歓迎会が大々的に開催できましたことを心より感謝申し上げます。また昨年に引き続き今年3月も生野フットボール連盟所属の少年サッカーチームが選手43名、引率者35名（大阪府議会議員および大阪市議会議員を含む）の規模で、西帰浦市を訪問し、ホームステイなどの親善交流を行いました。今年の夏も済州道から少年サッカーチームを招請し、草の根民間交流を活発に行う計画ですので、さらなるご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。20世紀は戦争の世紀だといわれますが、わが祖国・韓国は金大中大統領の勇気ある決断によって、南北首脳会談が開催され、平和統一へ向けて一歩前進しました。

21世紀には必ずや平和統一されるものと期待しております。また、世界各地で紛争が解決し、21世紀は平和の世紀であってほしいと願っています。

思えば、故郷済州道の発展は目覚しいものがあります。昨年末には金大中大統領が済州道を訪問され、済州道を漢拏山から白頭山までの交流の拠点、東アジア交流の拠点にすると表明されました。そのようなビジョンのもと、済州道では目下、国際自由都市へのグローバルな建設が進んでおります。私たち関済協所属の道民もそのような建設ビジョンへの幅広い参与が期待されております。

また済州道で南北閣僚会議が開催され、世界各国の要人たちも多数訪れておりますが、2002年に西帰浦市で開催されますW杯サッカー大会の競技場建設がいま急ピッチで進められております。かつてのソウルオリンピックのように、このW杯サッカー大会を機に済州道は世界から注目され、大きく発展するものと考えられます。

このような潮流のなかで、目を在日同胞社会に転じますと、6月5日には東京で総決起集会が開かれるなど地方参政権の獲得運動が全組織をあげて推進されていますが、国会審議が見送られるなどその前途は厳しいものがあります。経済情勢も、韓国、日本とも厳しい不況が続いておりますが、いま社会で求められているのは猪突猛進型の行動力のある人材であります。済州道人として将来に確固たる希望をもち、会員相互の親睦をはかる関済協のいろいろな行事に気軽に参加されるようお待ちしております。

済州少年サッカーチームを
招請

▲ 済州少年サッカーチーム一行 富士電線工業株式会社訪問記念 2000年8月21日



大阪入りした大静初等学校のサッカー選手は26名で、団長の文鐘海済州道体育会事務処長、姜永浩済州道蹴球協会副会長、姜武重大静初等学校長ら9名の役員に引率され、高昌照会長ら関済協役員に伴われて、大阪市役所に磯村隆文市長を表敬訪問した。その後、科学館や海遊館を見学した。

20日には北鶴橋小学校を会場に、生野フットボール連盟所属のサッカー選手たちや北鶴橋小学校の児童たちとの親善交流に努め、その夜は北鶴橋小学校の児童宅にホームステイした。親善交流会には同校の父兄約100人が出て、おでんやカレーライス、チジミ、焼肉など手作りの料理を、参加者500人にゆきとどくように汗だくになって準備した。その後、Jリーグ選手の実技披露や、盆踊り、花火大会など盛りだくさんの行事を楽しみ、親善交流を深めた。

最終日には富士電線工業（康忠男名誉会長）を訪問し、韓日親善の大役を果して大過なく帰国した。

スポーツを通じた民間交流を最大の活動目標にする関済協は、昨年8月18日～21日（3泊4日）、郷土済州道の大静初等学校5・6年のサッカーチーム（丁斗吉監督）を招請、生野フットボール連盟所属のチームと親善交流試合をし、また北鶴橋小学校の児童らと交流するなど韓日親善交流の草の根活動を活発に展開した。

2002年の韓日共同開催のW杯サッカーワールドカップの雰囲気を盛り上げようとの含みもあって、大阪市、市教委、W杯市開催推進委、体育会関西本部なども後援した韓日少年サッカーワールドカップは大阪市此花区の舞洲スポーツアイランドで四試合を消化、韓国チームは二勝二分の戦績だった。選手らは舞洲ロッジに宿泊した。



'01

文化事業

**濟州世界島
文化祭參加團**



執行部は、5月18日～20日まで3日間の日程で郷土を訪問し、済州道府禹瑾敏道知事を表敬訪問、これまでの協力について感謝の旨を伝え、済州道発展と民間交流にさらに尽力する意を表明した。翌日、「島から世界へ」をテーマに2001年済州世界島文化祭に参加した。今回はアジア太平洋からバリ島をはじめ、地元韓国からは済州島・江華島・鬱陵島、27ヶ国35島から約6千人が参加しそれぞれの文化と芸能を披露した。



顧問・相談役懇談会

7月24日

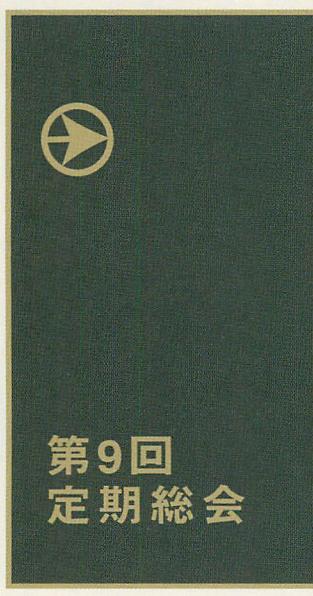
執行部役員



高昌照

直前会長 梁斗京(梁本)
会長 高昌照(高山)

專務理事 李永哲





在日本 関西済州道民協会任員 訪問

北済州郡



▶役員郷土表敬訪問

2002年度の総会に於いて選出された新任役員と顧問・相談役37名が3月22日～24日まで2泊3日の日程で表敬訪問した。済州道知事・道議会議長・道教育監・道体育会・済州市庁・西帰浦市庁・北済州郡庁・南済州郡庁・済州日報社・済民日報社・漢拏日報社を表敬訪問、また、福祉園光療養院・福祉平和の家を訪ね、金一封を伝達した。23日には、当協会主催の晩餐会を持ち、道内各級機関の要人と懇談した。

高昌照会長は「6月に開催するワールドカップ戦を機に、済州道は大きく発展するものと思われます。又、8月には韓・日（済州・大阪）蹴球交流親善試合を開催し、済州と大阪の少年サッカーチームの国際交流を支援していく」と述べた。



▶新年会・成人式
W杯開催を機に
郷土済州道はますます
世界へ羽ばたく



郷土済州道は、昨年6月に金大中大統領が参席したなか、国内外の著名な政治家や財界人、メディアが参加して「済州道平和フォーラム」を開催し、その「平和宣言」では、韓半島及び北東アジアの世界平和の構築を果たし、南北平和センターを設立すると宣言しました。11月には、金大中大統領が済州道を訪問し、済州国際自由都市計画を確定しました。

今年6月に開催されました韓日共催のW杯は、西帰浦市でも競技が行われましたが、このW杯を機に、済州道は東洋のハワイとして世界に認知され、大きく発展するものと期待され、済州道を故郷とする我々にとっても大きな喜びです。

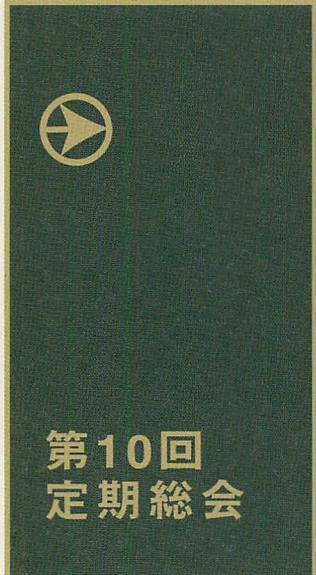
そして関済協を我々の心のより所、気楽に話し合える場にし、大阪・済州の韓日親善交流に取り組んでいく所存あります。昨年は「教科書問題」で中止となりましたが、今年8月には外都初等学校の少年サッカーチームを招請したいと考えております。皆様方のご協力、ご支援を宜しくお願ひいたします。

20世紀は戦争の世紀で、21世紀は平和が訪れ、祖国も統一されるものと考えておりましたが、テロの多発によりアフガン戦争で21世紀の幕が明け、それによって世界の経済情勢もより深刻になり、不況がますます深まっております。祖国・韓国も、未だ不況から立ち直っておりませんが、他の諸国よりは頑張っていると思います。昨年度は約2.5%の成長と言われております。

少年サッカーの交流試合を通じ
「草の根」の韓日民間交流を推進

執行部役員

直前会長 梁斗京(梁本)
会長 高昌照(高山)



▲ 日韓共同プロジェクト 「Japan大阪Korea済州」 8月



郷土訪問 金榮訓済州道議会議長



文部科学省スポーツ青少年局主催による日韓共同未来プロジェクト「Japan大阪・Korea 済州」友好親善フェスティバル（少年サッカー大会）が8月15日（金）～18日（月）の日程で西成区さくら公園に於いて開催された。

済州道から来阪した済州市西初等学校初め、千里馬（朝鮮初級選抜）・松原天美FC（松原市）・生野FC・高槻ウインズ・舞洲・生野選抜・生野コリア（在日韓国小）・生野TS・生野U12・コリアFC（朝鮮初級）・西成梅南の200名の小学生が参加した。

開会時は緊張気味だった少年達も、試合が始まると一歩も譲らない熱戦を繰り広げた。結果は、千里馬チームが優勝、済州市西初等チームが準優勝を収めたものの勝敗に関係なく少年達にとって夏休み最後の貴重な思い出になったと思われる。

8月16日（土）には、天王寺区の明月館に於いて、本会主催の歓迎食事会を開催し済州道チーム一行団を招待した。



幅広い交流推進

済州少年サッカーチームを招請し、
草の根の民間交流

高
昌
照

20世紀は戦争の世紀で、21世紀は平和が訪れ、祖国も統一されるものと考えておりましたが、テロの多発によりアフガン戦争で21世紀の幕が明け、それによって世界の経済情勢もより深刻になり、不況がますます深まっております。祖国・韓国も、未だ不況から立ち直っておりませんが、他の諸国よりは頑張っていると思います。昨年度は約2.5%の成長と言われております。

また、日本の経済不況も長いトンネルをまだ抜け切らずに迷走しております。これから先の21世紀は、どのような時代になるのか、まさに渾沌としておりますが、関済協におきましては、こうした暗い周辺環境を打破せんがために、郷土済州道のサッカー少年を招請して、韓日親善交流サッカー大会を盛大に開催することができました。昨年は「教科書問題」で、西帰浦初級学校のサッカー少年招請が中止となったのですが、昨年は、外都初等学校チームを招請し、草の根の民間交流を大いに推進することができました。これもひとえに関済協役員ならびに関係者の崇高な献身に支えられたものと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

郷土済州道は、いま国際自由都市をめざし、物流の拠点として飛躍しつつあります。近い将来、世界の人々が集い、自然と通信施設に恵まれた済州道の素晴らしいを再発見することでしょう。同時に、私たちの子孫も、郷土済州道がより身近なものとして存在し、世界の人々と幅広く交流できることを期待したいと思います。

文化事業

清州道在外道民、本国
アメリカ・在日2・3・4
世の大学生を対象に2000
年度夏季学校が7月29日よ
り8月4日の日程で



▲ 2002年度夏季学校入校



KOREA・JAPAN（大阪・清州）少年サッカー交流親善試合（8月16日～21日）を舞洲スポーツアイランドで開催した。17日～18日の試合には、清州道か来阪した外都初等学校初め、千里馬（朝鮮初級選抜）・生野FA（北中道SC／生野FC／北鶴大成S白鷺／SC（大阪市）／生駒FC（奈良県）の約150人の小学生が参加した。

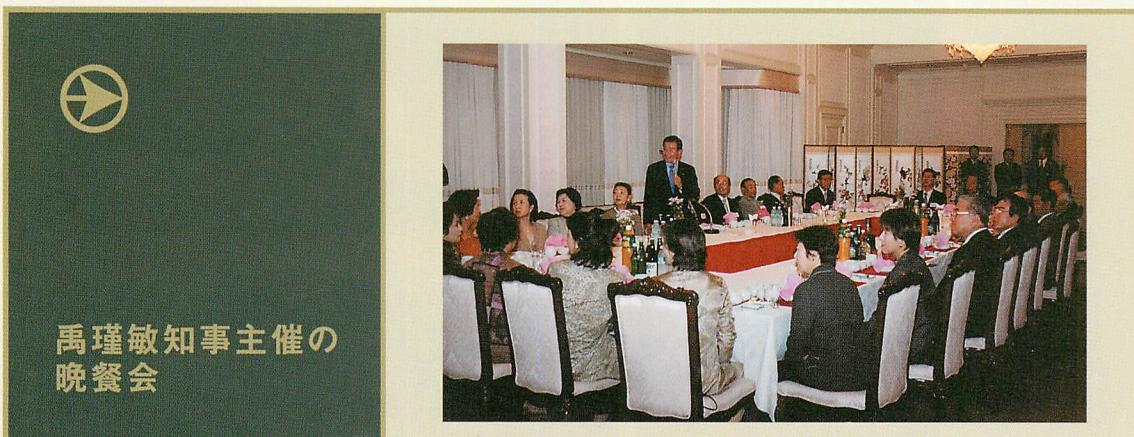
開会時は緊張気味だった少年達も、試合が始まると一歩も譲らない熱戦を繰り広げた。結果は、松原天美チームが優勝、外都初等チームが準優勝を収めたものの勝敗に関係なく少年達にとって夏休み最後の貴重な思い出になったと思われる。18日は、サッカーワールドカップの韓国代表で、セレッソ大阪に所属している尹晶煥選手が特別ゲストとして来場された。

祝 2002年新年会・成人式 賀
関西清州道民協会

▲ 2002年韓日少年サッカー(大阪・清州)交流親善試合

'03

文化事業



'04

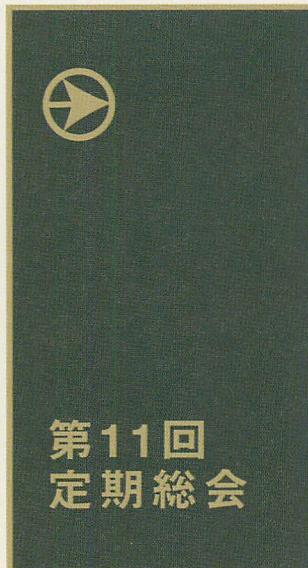
会長 朴國男(新井)

執行部役員

專務理事 李永哲



朴國男



朴國男新会長の就任挨拶

▲ 朴國男新会長夫人より高昌照前会長夫人へ花束贈呈

創立十周年記念パーティー

挨拶

朴國男



第11回定期総会が1月17日都ホテルで開かれた。規約により高昌照会長が議長に選出して議案審議を行った。会員総数659名中、本人出席217名、委任状132名が出席して総会が成立する宣言され、書記に康文男総務部長が指名され、李永哲専務理事の進行のもと進められた。総括報告が朴國男総務副会長により、財政報告が高英寛財政副会長により、監査報告が金達孝監事よりそれぞれ行われ、意義なく原案通り承認された。続く1. 新年度事業計画案（朴信平事業副会長）2. 新年度予算案（高英寛財政副会長）が発表され満場一致で可決された。引き続き規約一部改正案が上程され、原案通り可決された。

統いて、任期満了に伴い役員が総辞職して、高昌照会長より次期会長に朴國男総務副会長が推戴され、満場一致で承認、選出された。監事に金永柱・韓健三・洪佳佑3氏が推薦選出され、新執行部役員は李永哲専務理事より発表された。総務副会長高英寛・財政副会長呉基博・事業副会長朴信平・企画副会長朴晶禧・涉外副会長康実・厚生副会長康忠成・体育副会長高敬弼・総務部長任京賓・財政部長呉永守・事業部長李元徹・事業部長金伸吉・企画部長韓在邦・企画部長康文男・涉外部長梁在浩・厚生部長金一波・体育部長金光龍・体育部長姜孝一発表され、顧問推戴・相談役、理事選出は新会長に一任された。閉会式に金聖大組織副会長より閉会式を述べ満場一致で可決された。

'04

文化事業

濟州道知事表敬訪問



▲ 2004年4月17日 園光療養院訪問



▲ 社会福祉誠金 関西濟州道民協会・朴國男会長より寄付



▲ 康起權南濟州郡守表敬訪問



2004年4月17日 平和の家 訪問
社会福祉誠金
関西濟州道民協会・朴國男会長より寄付



鄉土訪問



▲ 金泰煥 濟州市長 表敬訪問



▲ 金榮訓 濟州道議會議長 表敬訪問



▲ 申喆宇 北濟州郡守表敬訪問

西歸浦市
金成現 副市長
表敬訪問



05 思い出のアルバム

（略）



▲ 創立総会

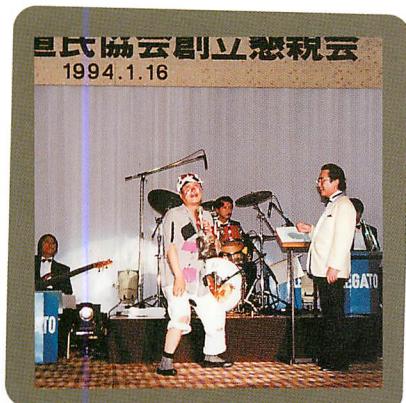


関西済州道民協会創立総会
1994.1.16



▶郷土訪問





GOLF ゴルフ会







第4回ゴルフ大会
北六甲カントリークラブ
103人が参加、女性も26人参加



野遊会・和歌山マリーナシティ

'96.10.13





第11回済州道夏季学校
済州道地方公務員教育院
'97.8.3-8.8



新年会・成人式



郷土訪問



▶ 濟州道で初の国体



▶ 康忠男名誉会長率いる関西から選手団七十七名が参加



▶ 在日故郷訪問団



▶ 第一回納涼懇親会



▶ 三世・四世が喜んで訪問できる立派な済州道を造つて下さい



▶ 禹瑾敏済州道知事より
心温まる贈り物

第13回済州道夏季学校
済州大学校
'99.8.2-8.6





▶ 映画のメッカ 東映太秦映画村



▶ ゴルフ会



▲ 済州大学校より名誉経営学博士学位を授与された康忠男名誉会長



▶ 済州・大阪・外都初等学校を招く
舞洲スポーツアイランドで開会式





▶ 金太智大使歓迎ゴルフ会
北六甲カントリークラブで五十二人が参加





07 婦人会の歩み 青年会の歩み

執行部役員



申永林

会長 申永林（松岡正子）

相談役	李順玉（坂本京子）	幹事	李寿子（梁本寿子）
"	高菊子（和田菊子）	"	邊寿子（安田寿子）
"	姜順子（西原順子）	"	文義子（徳山義子）
副会長	金濟（田中孝江）	"	高好子（呉城好子）
"	善勝子（大山勝子）	"	李富枝（水原富枝）
"	朴君子（大島君子）	"	康春子（梁川晴子）
		"	芳年子（徳山芳子）
		"	幸代（箕山年子）
		"	金幸代（高山幸代）

◀ 関西済州道民協会婦人会
結成式

女性は、最愛の人と結婚して子供を生み、それからの十年、二十年というものは、子育てや炊事、洗濯のことで、休むヒマもなく、また社会活動などに参加できる時間もなく、働きづくめでした。こうした子育てなど家庭での活動が一段落して初めて社会活動やボランティア活動ができるようになるのですが、ここに、こうして、関西済州道民協会の皆さまのお力によって、婦人会を設立していただき、社会活動の場を与えていただきましたことを心より感謝申し上げ、皆さまのご期待に添うべく、女性としての活動を展開して参りたいと思います。

関西済州道民協会の初代会長康忠男名誉会長は、「歩きながら考え、夢とロマンのある組織をつくりましょう」と呼びかけました。私は、その言葉にとても感動しております。人間には、特に女性には夢とロマンが大切な大切な栄養源です。それがあるからこそ、辛い家事にも耐えられるのです。

さらに、吳辰成現会長も、「楽しい笑いのある組織にしたい」とおっしゃっております。昔から、「笑う門には福来る」と申しますように、楽しく笑って過ごせる人生は最高の人生ではないでしょうか。

お聞きするところによりますと、同胞社会の最大の悩みは結婚問題です。また青年の育成も大きな課題との事です。そうしたいろいろな問題を解決していくためにも、女性のネットワークを構築し、関西済州道民協会の歴史をつくり上げております。こうした素晴らしい言葉を反芻（はんすう）しながら、日々研鑽に努め、関西済州道民協会がよりよく発展していくための内助の功を尽くして参りたいと存じます。

婦人会を結成 (結婚問題解決の大きな弾みに)

関西済州道民協会婦人会の発足式が、6月24日午後6時から都ホテル大阪で、約200人が集い、盛大に開かれた。

挨拶に立った吳辰成会長は、「在日同胞社会は今、子弟の結婚問題が大きな悩みになっており、また、本協会も会員1000名達成を大きな目標にしている。こうしたなか、婦人会が発足したことは大きな喜びであり、発展の原動力となる女性パワーを信頼し、期待したい」と述べた。

続いて、婦人会長に申永林さんが推薦され、満場一致で選出された。これを受けて、申永林婦人会長は、婦人会役員を発表し、別掲の通りの就任挨拶を述べた。

関西済州道民協会の婦人会結成という記念すべきすばらしい日の晴れがましい席から、会長として皆様にご挨拶できますことは、まことに面（おも）はゆい気持ちであります。一方ではとても光栄なことと存じ上げます。

ご承知の通り、関西済州道民協会は、それまでの済州四団体が一つに合同して設立されました。それ以前の道民会、親睦会、経済人協会、あるいは青年会での家族同伴パーティーなどで一緒にした方々もいらっしゃいますが、再び、この席で皆さんと一緒にできますことを非常に幸せを感じております。

'97



▲ 第1回関西済州道民協会 婦人会 平成8年11月22日 伊勢志摩へ1泊二日の親睦旅行



挨拶に立った申永林（松岡）会長は、「紫陽花の花が咲くこの季節に大過なく創立一周年を迎えられましたことは皆様のお陰と感謝申し上げます。一年を振り返りますと、野遊会、ゴルフコンペ、新年会と関済協の行事に参加させていただき、いろいろと学びました。11月には伊勢志摩へ一泊二日の親睦旅行を実施し、今年も実施する予定です。また、若い人たちのふれあいの場をつくり、交流を深めるためのパーティーも準備しております」と述べた。



第1回若人の集い

「第1回若人の集い」を主催した。この集いには大阪や神戸などから82名の青年男女が参加した。

「若い世代の出会いの機会を提供することによって、人生の伴侶が見つかれば良いという願いから、第1回の集いを開きました。これからも継続させたいと思っています」と述べた。参加した青年男女は、思い思いのカップルやグループをつくり、終始、和やかに歓談した。



▲ 都ホテルに京阪神から82名



金 善 済

直前会長 申永林（松岡正子）
会長 金善済（田中孝江）

相談役	高 姜 子	菊 順 子	和田菊子	幹事	寿 子
"	金 君	勝 芳	子（西原順子）	"	寿 義
副会長	朴 好	好	子（大島君子）	"	富 李
"	高		子（大山勝子）	"	幸 文
監査役			子（徳山芳子）	"	陽 李
			子（呉城好子）	"	丁 金



▲ 定期総会



▲ 第2回若人の集い

出会いを大切に、チャレンジ精神で

関済協の初代会長は夢とロマンのある組織、二代目会長は楽しい笑いのある組織、三代目の会長は会員間の親睦と団結、そして婦人会初代会長は内助の功と会員相互の親睦をモットーにして参りました。私も大賛成です。私としましては特に、出会いと関わり合いを大事にしたいと思います。出会いにはいろいろな出会いがあります。との出会い、書物、絵画、スポーツ、旅行、草花、樹木、等々の出会い、また、奇跡的な出会いもあれば、予期しない出会いもあります。

人という字は、一人では生きていけないということを表しています。大勢の人の支えがあって、人という字ができるのではないかと思います。過去にいろいろな人の関わり合いがあって、支えられて、これから先の未来もいろいろな人の支えがあって、関わり合いがあって、それで生きていくと思っています。

もう一つはチャレンジ精神を大切にしたいと思います。人生の素晴らしさは感激です。お金や名誉ではございません。感激する瞬間をどれだけ私達が得られるかということです。旅行でもいいです。読書でもいいです。絵画を見て、映画を見て、また音楽を聴いて感激する何かがあると思います。



▲ 平成9年11月27日 岡山・倉敷へ懇親の1泊

'00

婦人会役員



金 芳 子

直前会長 金 善 濟 (田中孝江)
会 長 金 芳 子 (徳山芳子)

顧問	高 菊 子 (和田菊子)	常任顧問	申 永 林 (松岡正子)
"	高 姜 子 (西原順子)	"	寿 李 子 (梁本寿子)
相談役	高 好 子 (呉城好子)	"	静 金 江 (新井静子)
"	高 朴 子 (大山勝子)	"	英 韓 边 (岩井英子)
"	金 君 子 (大島君子)	"	寿 文 義 (安田寿子)
副会長	李 愛 子 (安井愛子)	"	義 洪 富 (徳山義子)
"	姜 陽 子 (高 陽子)	"	富 洪 吉 (新居富子)
"	金 泰 順 (金沢順子)	監査役	吉 子 (高山吉子)



▲ 第3回定期総会



▲ 婦人会が設立5周年を祝う



**婦人会多彩な活動を総括
(ゴルフの集い・若人の集い・親睦会等)**

初代会長の「内助の功、会員相互の親睦」、直前会長の「出会いを大切にし、いろいろなことにチャレンジする」という精神と、これまでの四年間の事業を引き継いで参りたいと考えております。

私は、「会の向上と会員皆さまの和を深める精神」で、新役員の皆さまのお力を借りながら、お役に立てるよう、私の力ある限り精一杯努力してまいりますので、どうぞ今後とも暖かいご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。

婦人会発足当初の会員は120名そこそくだったが、期末会員は134名と集計された。現在も増えつつある。その婦人会は金善濟執行部の二年間、「出会いを大切にし、いろいろなことにチャレンジする」ということをモットーに、まずゴルフコンペを初めて実施した。このゴルフコンペには40人近くが集まり、楽しい集いになった。

二つ目はブライダル触れ合いパーティー=若人の集いを実施した。この集いで10組のカップルが誕生し、そのうち3組がめでたくゴールインし、婦人会からお祝いの品をプレゼントした。

次は、一泊懇親旅行を二回実施した。一回目は島崎藤村で有名な信州ゆかりの地を散策し、二回目は飛騨、美濃、下呂温泉と巡遊した。またコリアンレストランでの懇親会には80人ぐらいが参加し、大盛況であった。

4月には野遊会ということで、御所の一般公開に合わせ、花見を楽しんだ。当日は御所のほか円山公園や平安神宮庭園を巡遊し、アフタヌーンティーなどを賞味した。



▶ 下呂温泉にて



▶ 第3回 若人の集い



▶ 十一月 婦人会六十名郷土訪問



▶ ゴルフコンペ コマ C

婦人会役員



金泰順

直前会長 金芳子（徳山芳子）
会長 金泰順（金沢順子）

名誉顧問
常任顧問
顧問
相談役
”
”
”
”

申永林（松岡正子）
善濟（田中孝江）
菊子（和田菊子）
順子（西原順子）
好子（呉城好子）
陽子（高陽子）
勝子（大山勝子）
君子（大島君子）

副会長
”
幹事
”
”
”
”
監査役

李文洪（安井愛子）
金韓英（徳山義子）
高靜子（新居富子）
幸江子（新井静子）
福代子（岩井英子）
春代子（高山幸代）
洪珠子（水戸福美）
李映吉（吉田益代）
姫吉子（豊川春美）
李洪吉子（高山吉子）



▲ 京都 保津川下り、川岸の山桜を楽しむ

歴代会長ならびに役員皆さまの力で、婦人会という大木ができたように思います。その大きな木を少しも枯れさせず、少しづつ自分の気持ちをやりながら育てていきましたと思っています。婦人会が成り立って枝になり実になりますので、婦人会の催しがあれば、多くの参加をお願い致します。



「婦人会が郷土訪問」

11月12日～14日（2泊3日）郷土濟州道を訪問、一行は、福祉関係を訪問金一封を伝達したあと、朴勝蓮（濟州道知事夫人）より知事官邸に招かれ、晩餐会を共にした。



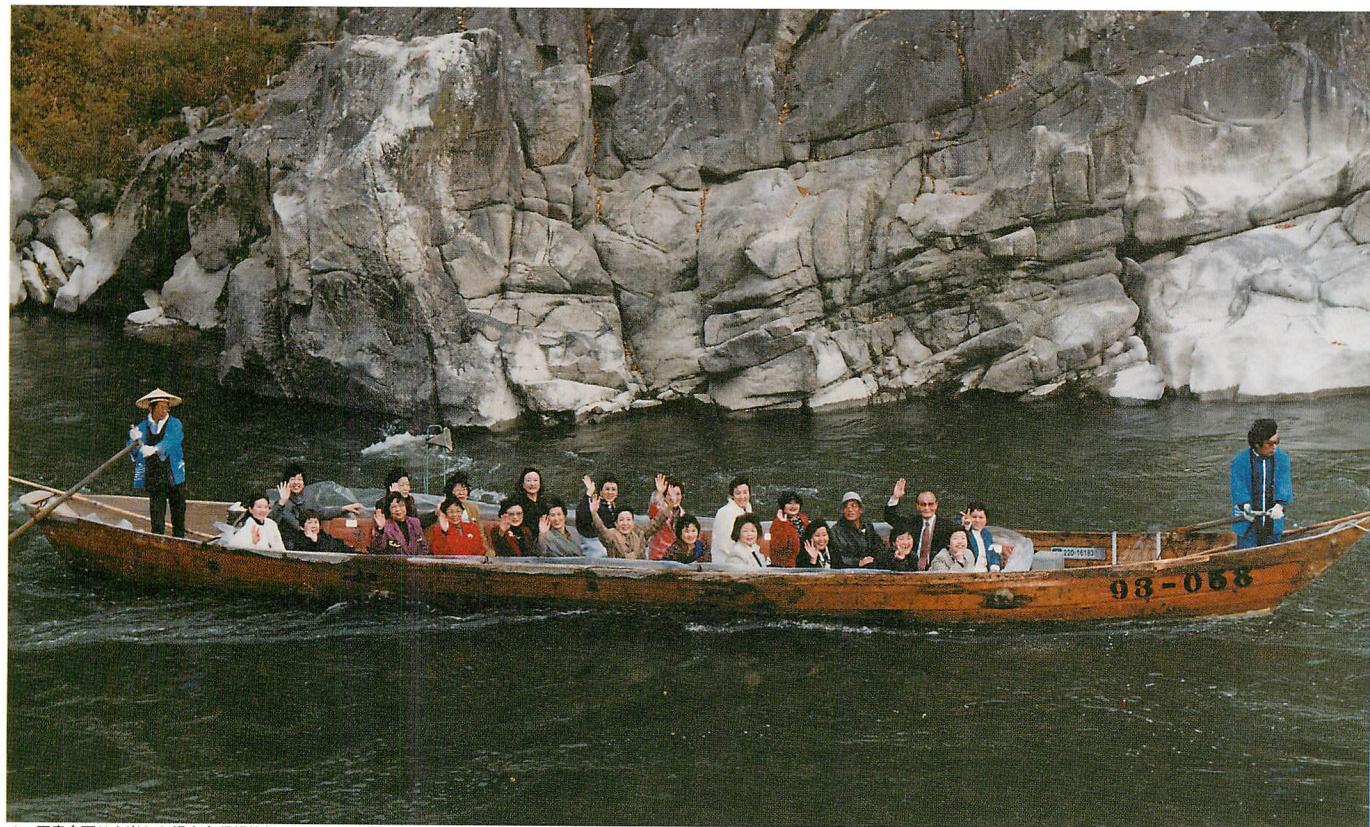
▲ 平成15年11月7日 北海道昭和新山にて、1泊2日 憇親旅行



▲ 4月1日 和歌山へ 憇親花見と温泉の旅行、49名が参加



▲ 平成13年11月21日 熊野路へ懇親旅行、64名が参加



▲ 天竜舟下りを楽しむ婦人会懇親旅行



梁 哲 司

關西濟州道民協會 青年会

『新たなる出発』

青年会趣意書

우리는 제주도에 조상을 두고 일본에 생활기반을 두고 있는 청년들이다.

그러나 그것은 때때로 자기 자신을 잊은 채 사회의 현실에 좌절되거나 시대에 흐름에 떠밀려 갈 소지가 많다.

이러한 현실을 인식해 비슷한 환경에 처해 있는 청년들이 우정우애와 상호존중을 바탕으로 친교를 돋구어 하고, 미래를 책시하는 의의있는 생활, 인간적 향상과 지역사회에 공헌함을 목적으로 여기에 청년회를 설립한다.

青年会趣意書

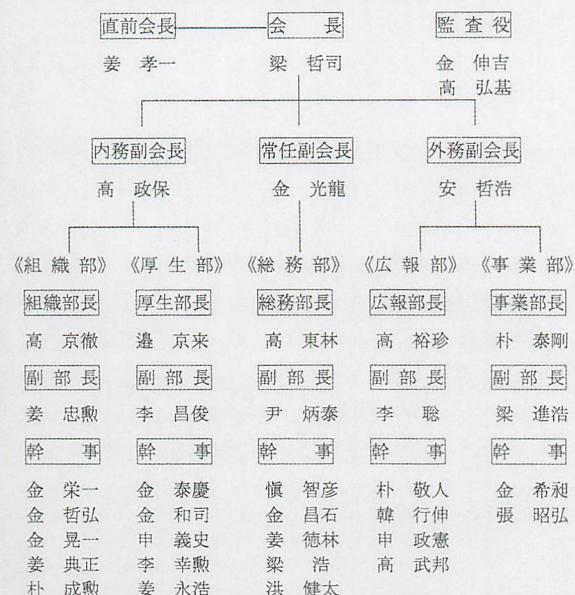
私達は済州道に祖先をもち、日本に生活基盤を置く青年である。

しかし、それは時として自分を見失い、社会の現実に埋没し、時代の波に流されがちである。このような現実を認識し、同じ境遇の立場にある青年が集い、友情友愛、相互尊重のもとに親交を深め、未来を見つめた意義ある生活、人間的向上、地域社会への貢献を目的としてここに青年会を設立する。

歴代会長

初代	1993年度	崔 方 元
2代	1994年度	朴 承 福
3代	1995年度	洪 碩 均
4代	1996年度	康 文 男
5代	1997年度	康 武 良
6代	1998年度	金 伸 吉
7代	1999年度	康 義 松
8代	2000年度	金 成 満
9代	2001年度	姜 孝 一
	2002年度	姜 孝 一

2004年度青年会組織図





▲ 図書基金・福祉基金 寄贈式



▲ 新入会員歓迎会、5名の新しい仲間



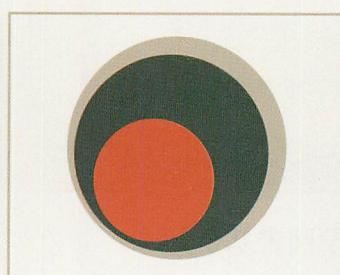
▲ 第11回定期総会

新入会員

勲一泰敏匡秀憲觀一嘉
忠守炳英泰規帝行勲伸
姜玄尹申金康金洪李洪



▲ アトラクションで子供達も大はしゃぎ



▲ 家族同伴の忘年会



▲ 济州大学前での記念撮影



▶ 勉強会で講師をしてくれた宝嚴寺 法岳和尚



▲ 今年も盛大に行われた定期総会、最後は恒例の統一列車

2004年度行事計画

- 4月 スポーツ大会
- 5月 勉強会
- 7月 勉強会
- 8月 野遊会（家族交流）
- 10月 勉強会
- 11月 母国訪問
- 12月 OB交流会

2004年度活動方針

1. 自己啓蒙・啓発を高める勉強会の充実
2. 新入会員の拡充と育成
3. 青年会活動の活性化
4. 会員間の強固な信頼関係構築

伝統ある事業「済州大学図書基金」

同伴盛大恒例

青年会が済州道の大学に図書基金を始めて以来、昨年で32年を迎めました。

当初、我々の先輩たちが故郷の大学に何か貢献できることはないかと思いを寄せて始まったのがこの図書基金です。当時は大学からの要望を聞きその書物を買い揃えて持って行ったと聞いておりますが、その思いは途切れること無く受け継がれ、今や三分の一世紀を迎えようとしております。異国日本で生まれ育ちながら、故郷に貢献しようとする先輩方の思いは、偉大がありました。

過去、母国に対し様々な同胞団体の寄付・寄贈を聞きますが、この事業ほど長く引き継がれ、心のこもった事業があつたでしょうか。この事業は、我が故郷の大学で学び韓国の次代を担っていく学生達に、無言のエールを送るものであります。そういった意味においてこの図書基金は我々青年会にとって最も伝統があり、故郷に貢献できる喜びを得る最大の事業であります。

この事業が、我が故郷の大学に役立っていただけることを心から願い、又、我々の後輩が、これからもこの事業を続けていくよう努力する所存であります。



「済州大学図書基金」

1999年	46人	660,000円
2000年	32人	530,000円
2001年	65人	1,07,5000円 (30周年)
2002年	41人	620,000円
		(図書基金320,000円、福祉基金300,000円)
2003年	45人	688,000円
		(図書基金344,000円、福祉基金344,000円)

關西濟州道民協會 青年会

ホームページ アドレス
<http://www.jejudo.jp>

三十周年記念植樹



漢 贊



壬午四月十五日
地方官濟州判官李恭顯
軍官護軍李廷楷等大員審集尹起跋
幅員四百八十里
東距日本國二千餘里
南北七十三里
東西一百七十九里
北距海南九百七十里
東距日本國二千餘里
丙距女人國八千餘里
午距琉球國五千餘里
丁距安南國一萬七千餘里
未距暹羅國占城一萬餘里
坤距寧波府八千里
申距蘇杭州七千里
庚距揚州七千里
辛距山東省萬餘里
戌距青州島餘里



関西済州道民協会
2004